

愛知県書写書道教育研究会

子ども達を書写好きに



元尾道市立御調西小学校長
広島大学客員講師
藤 井 浩 治

「書写」とはこんな時間①

「書写」のイメージ

- ひたすら手本を見て書かされるつらい時間
- 上手な子だけが輝ける時間
- できれば教えたくない教科



書写は他教科（算数）と同じ

	算 数	書 写
ねらい	三角形の面積を求めよう	文字の大きさ
きまりの 発見	三角形が2つで 平行四辺形になるよ	文字を比較すると 共通点が分かったよ
公式 (原則)	「底辺×高さ÷2」だね	「漢字」は大きく 「ひらがな」は小さく
確かめ	数字をあてはめて 確かめよう	原則にあてはめて 自分の字を確かめよう
練習	練習問題をやってみよう 「ヒントカード」	半紙に練習しよう 「練習用紙(なぞり用紙)」
振り返り	学習したことをまとめて 発表しよう	まとめ書きをして 評価しよう

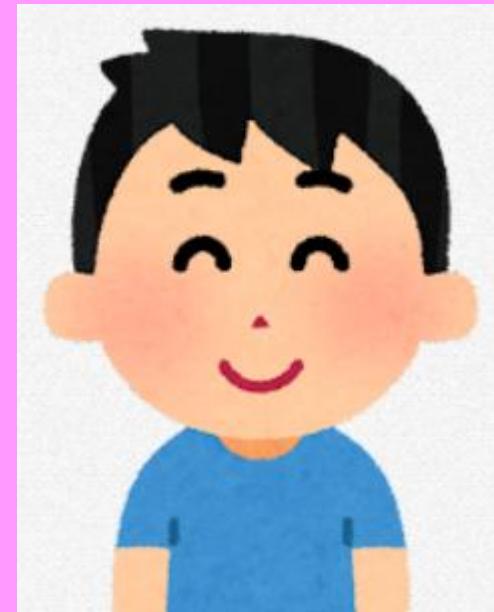
45分で子どもが変わる授業・「書写」



「書写」とはこんな時間②

私の授業を受講後の感想

- 書写は目に見える分かり易い成長と成功体験を味わえる素敵な教科だ
- 一時間で気持ちや文字までも変える書写の授業は凄い



書写授業の単元構成（3時間）



①発見する授業(1時間目)



②既習事項の活用(2時間目)

③硬筆で他字に応用(3時間目)

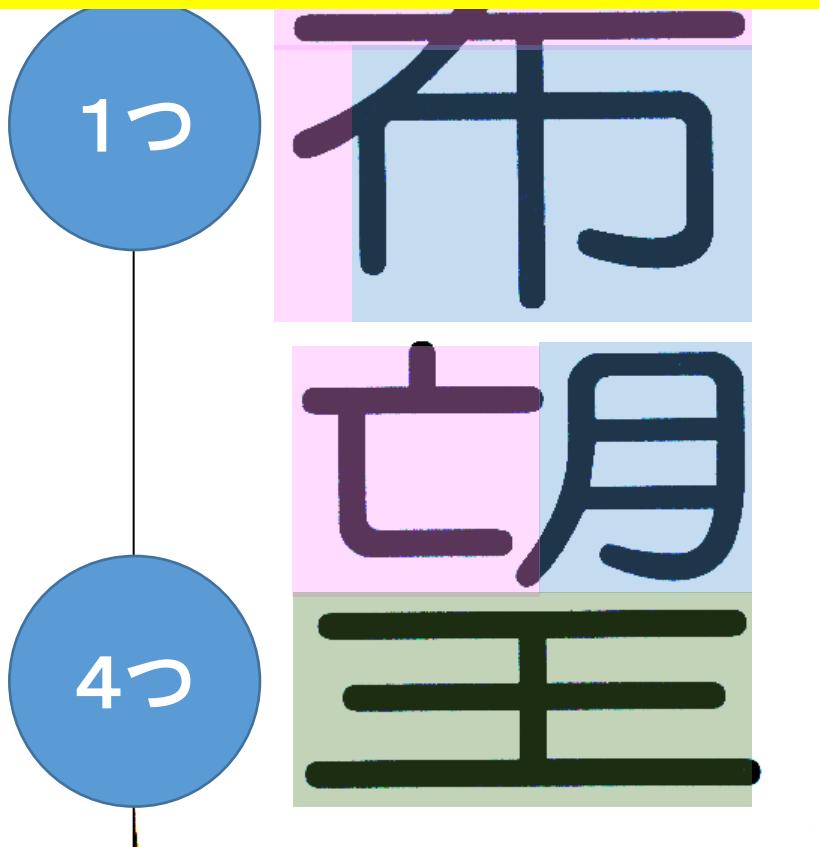
単元①発見する授業

氏名	
組立方(内外・三つの部分)	
まとめ書き	①ためし書き

て」の確認と試し書き

単元①発見する授業

③三回目	②二回目



と三つの部分の
立て方に気をつけて書く

めて

「内外の組立て方」のきまりを知ろう

中心がずれるチーム

中心が通るチーム

②

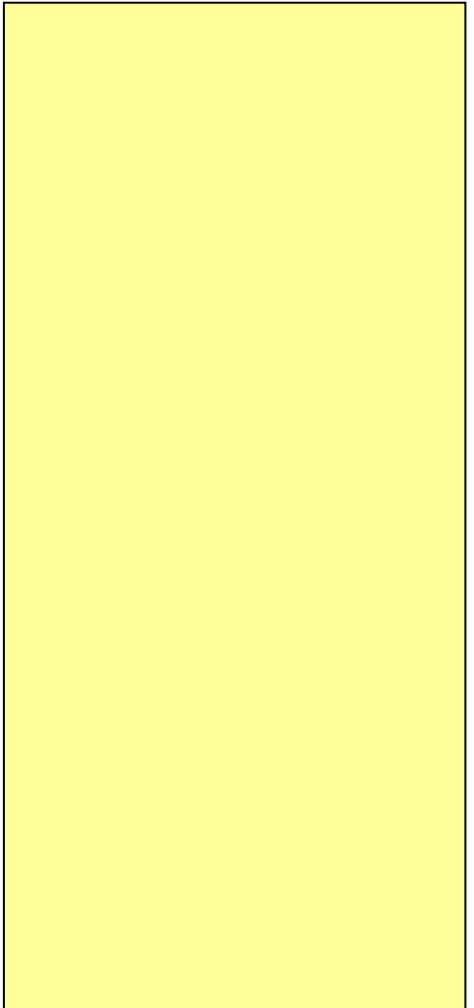
「原則をクイズで発見」

教え込みではなく、子どもたち
に発見させる

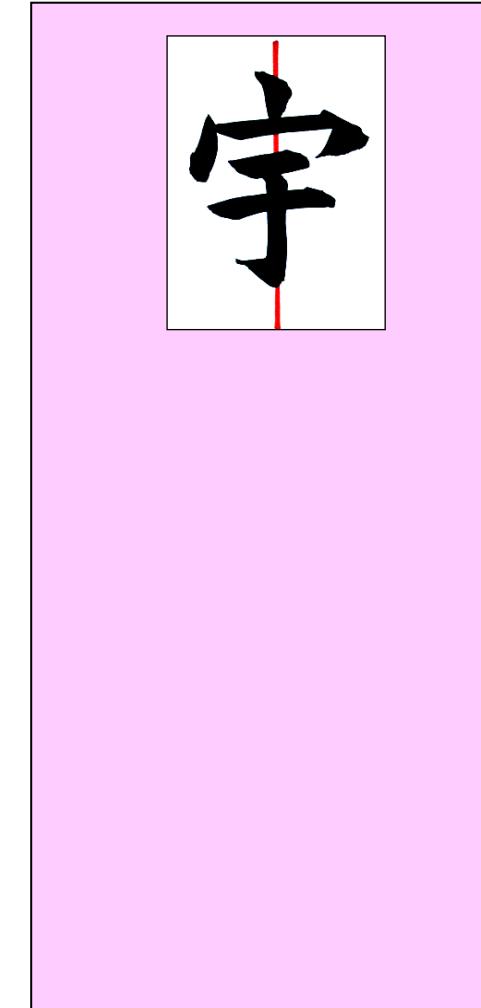


「中心を通る」方が良い

中心がずれるチーム



中心が通るチーム

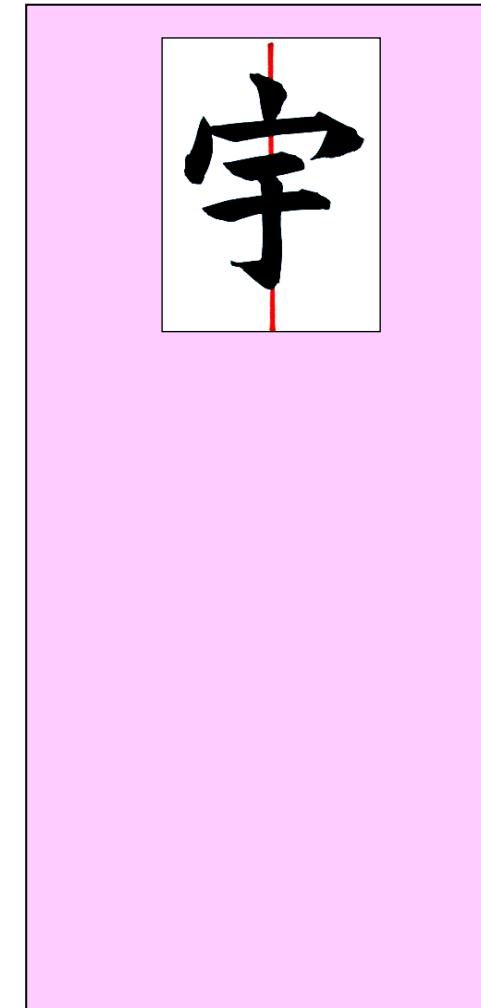
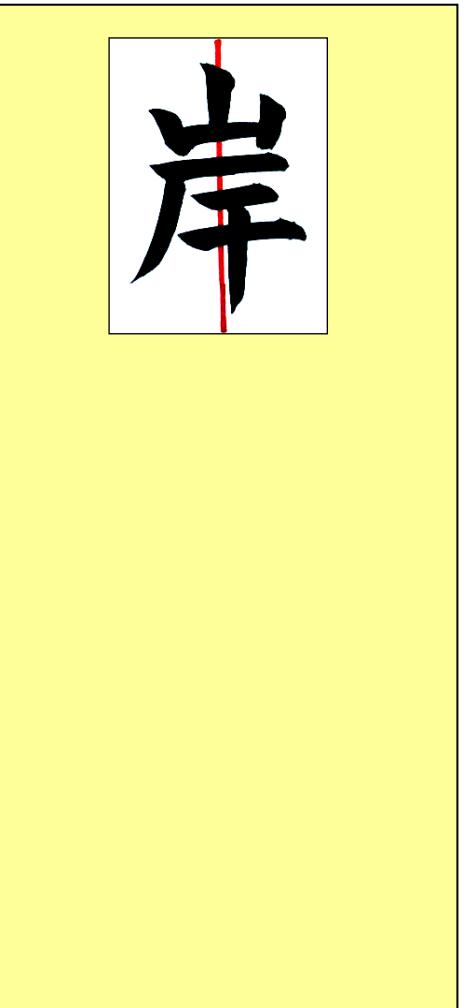


内外の組立方に気をつけて書く

「中心がずれる」方が良い

中心がずれるチーム

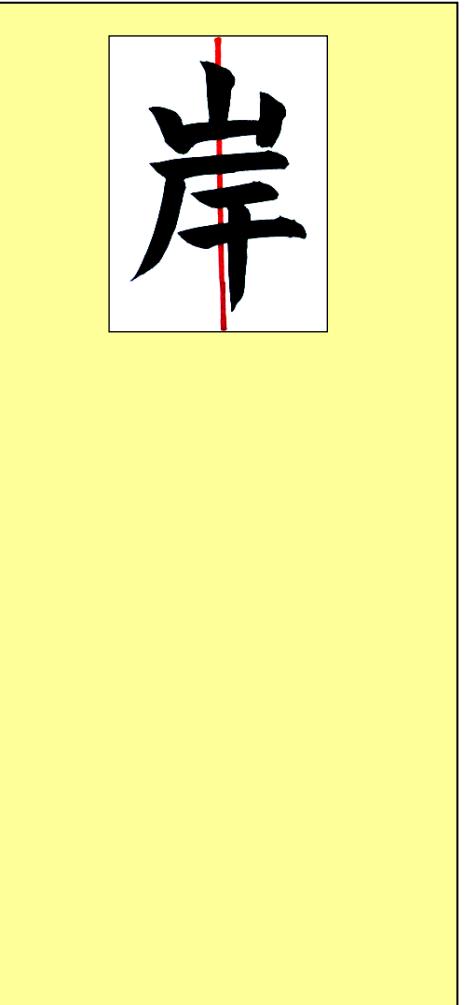
中心が通るチーム



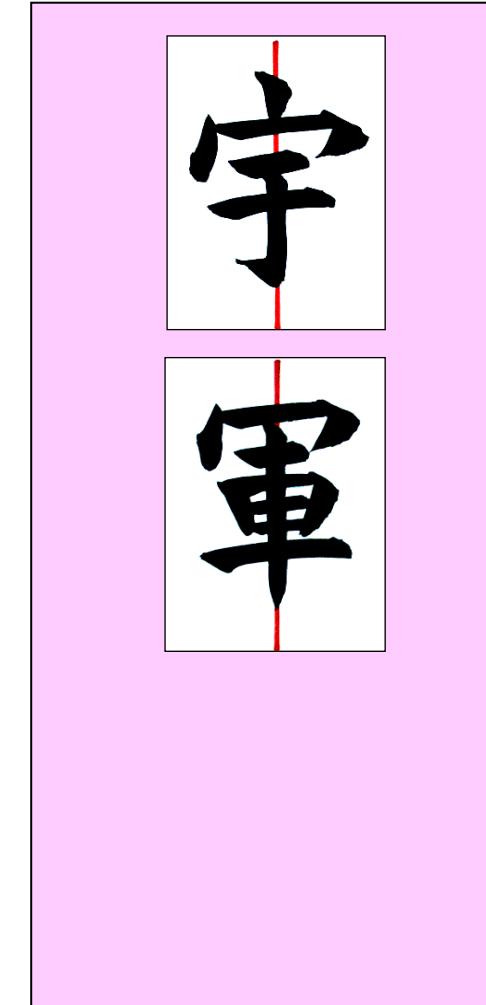
内外の組立方に気をつけて書く

中心を通る方が良い

中心がずれるチーム



中心が通るチーム

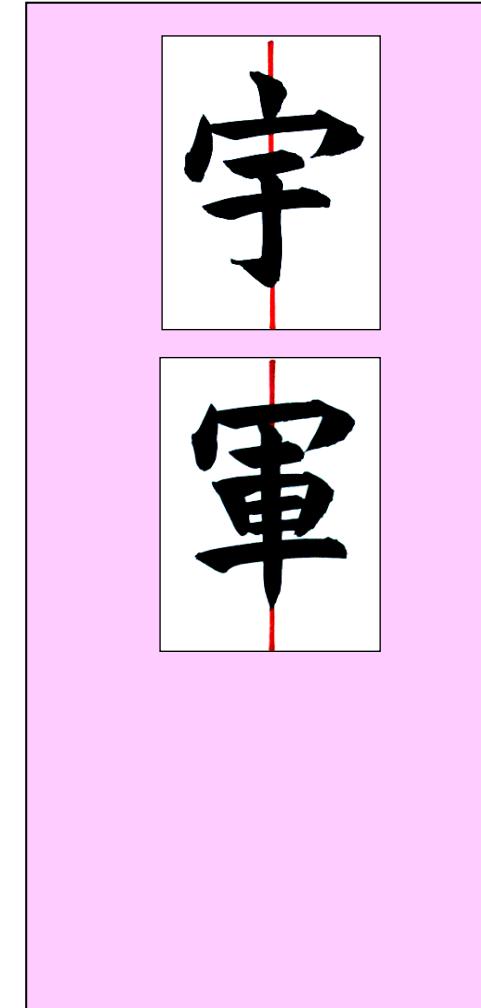
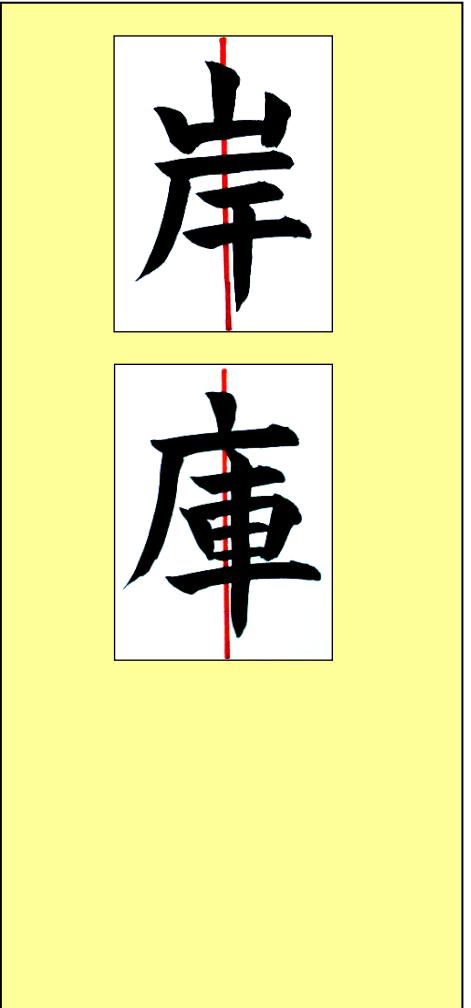


内外の組立方に気をつけて書く

「中心がずれる」方が良い

中心がずれるチーム

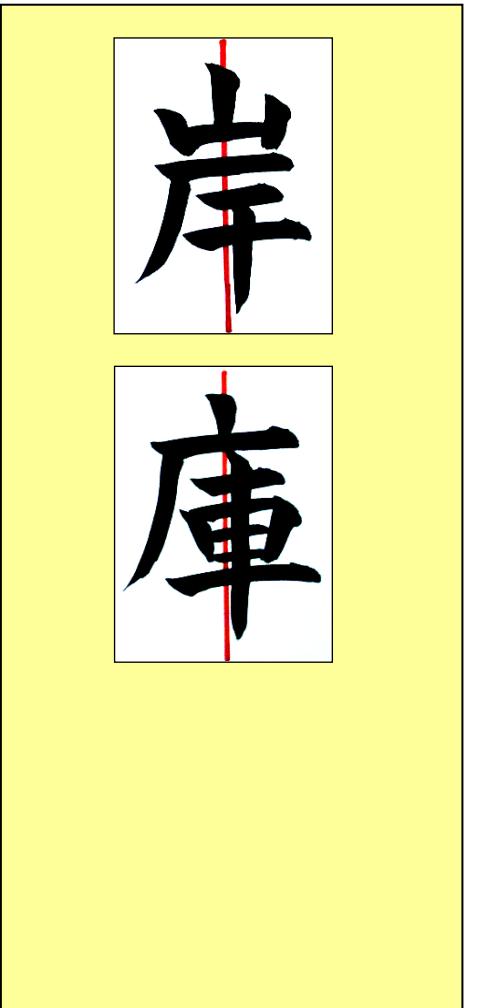
中心が通るチーム



内外の組立方に気をつけて書く

中心を通る方が良い

中心がずれるチーム

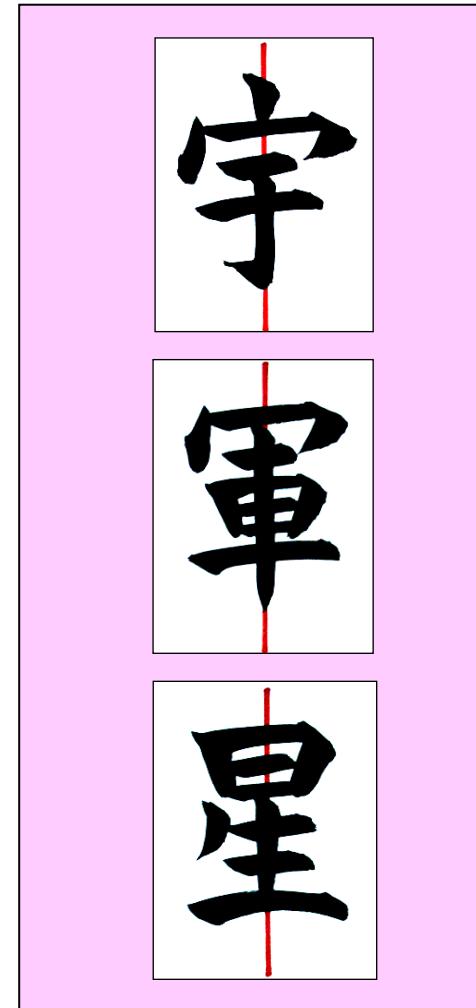


②

中心が通るチーム



①

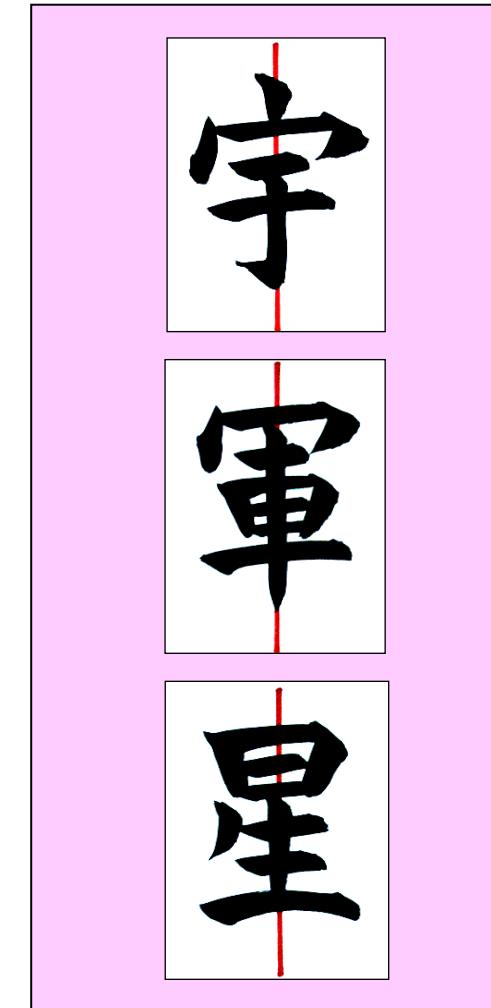
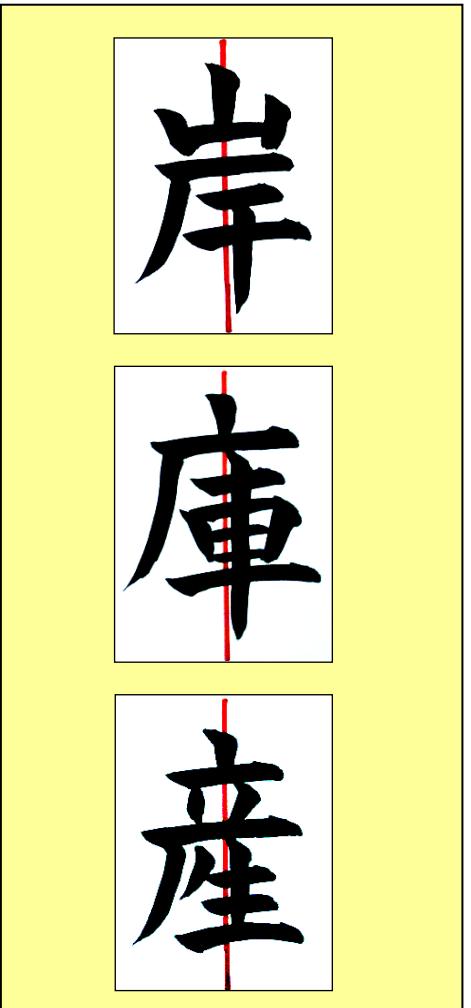


内外の組立方に気をつけて書く

「中心がずれる」方が良い

中心がずれるチーム

中心が通るチーム

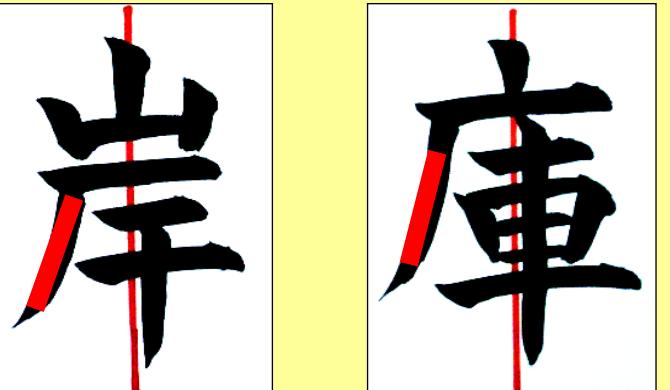


内外の組立方に気をつけて書く

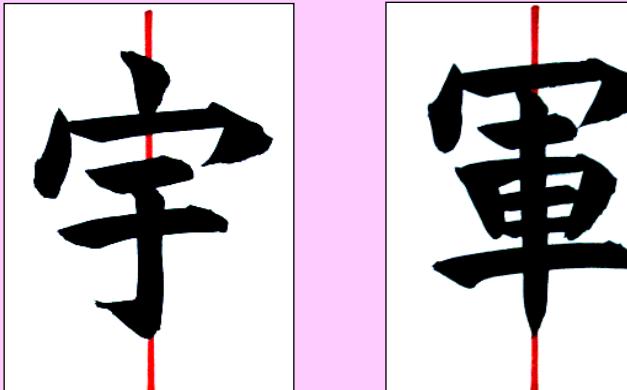
「ずれるチーム」と「通るチーム」の違いは？

漢字の左に左はらいがある

中心がずれるチーム

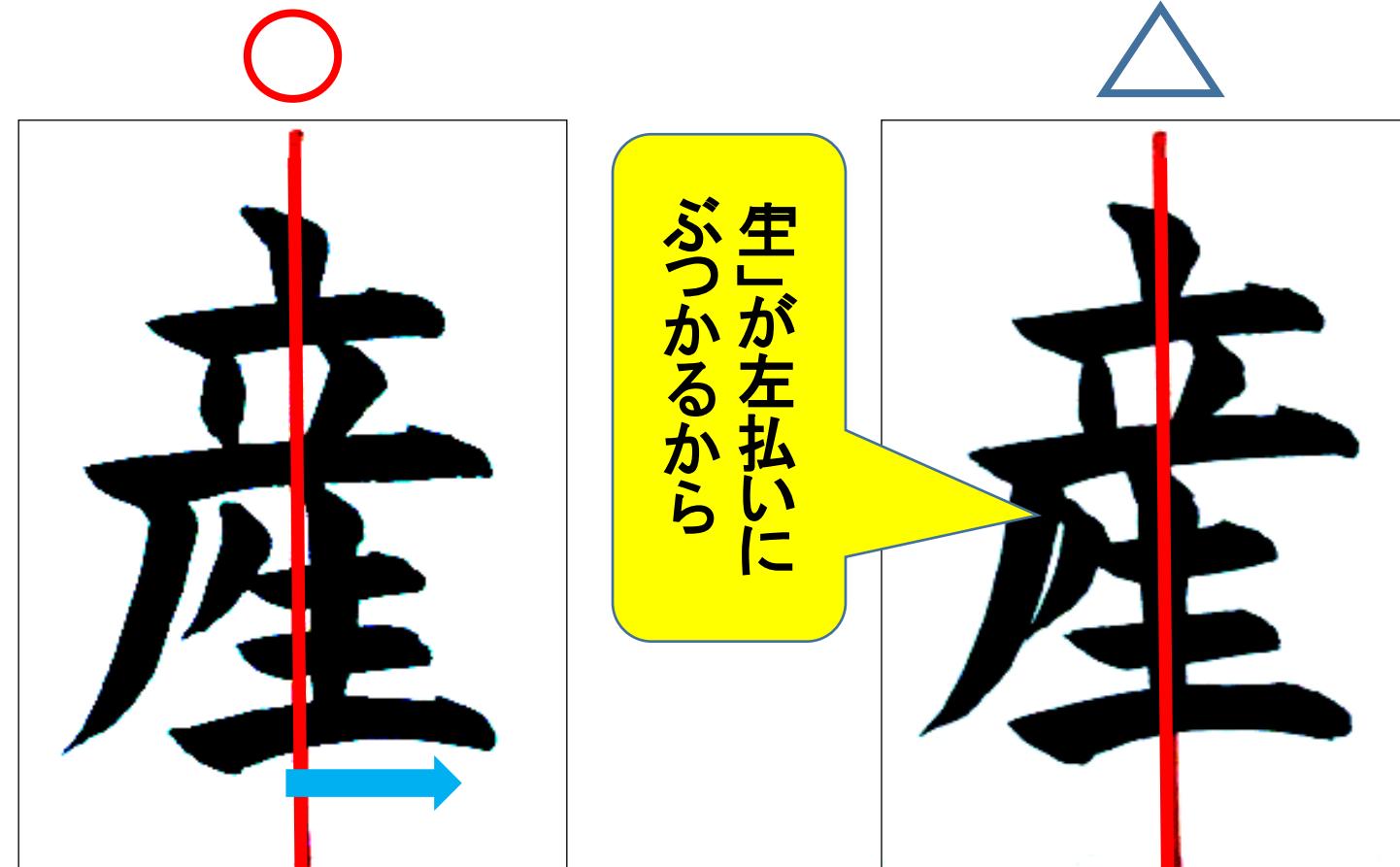


中心が通るチーム



内外の組立方に気をつけて書く

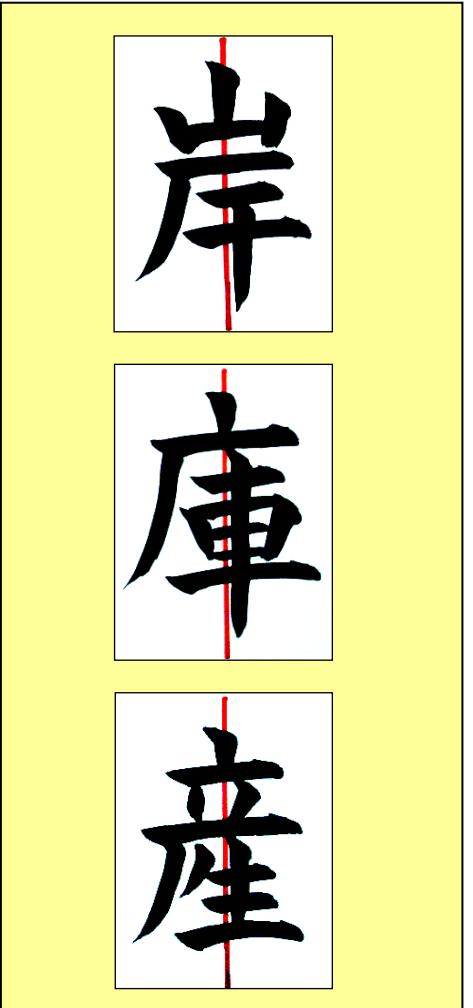
どうして「左払い」があると中心をずらすのか



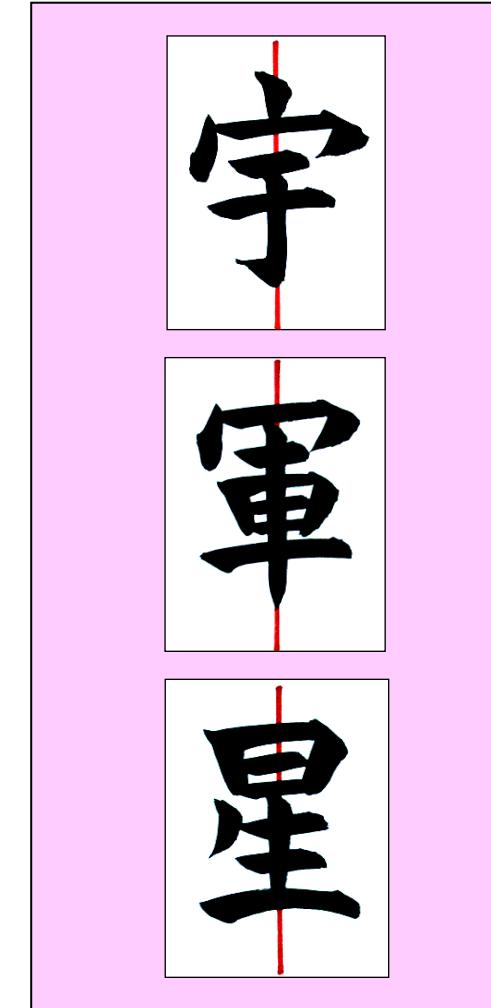
「中の部分」が「左はらい」にぶつからないようにするため
「中の部分」を少し右に寄せる

どちらの組立て方が良いか

中心がずれるチーム



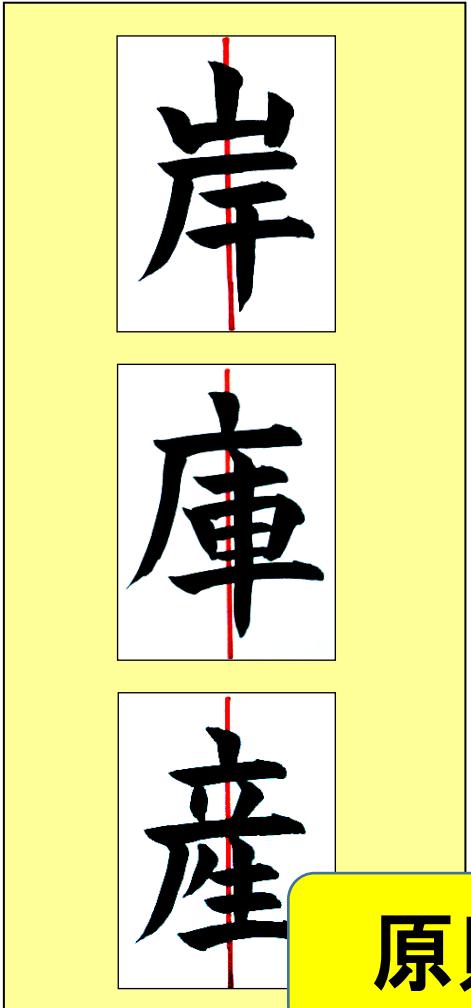
中心が通るチーム



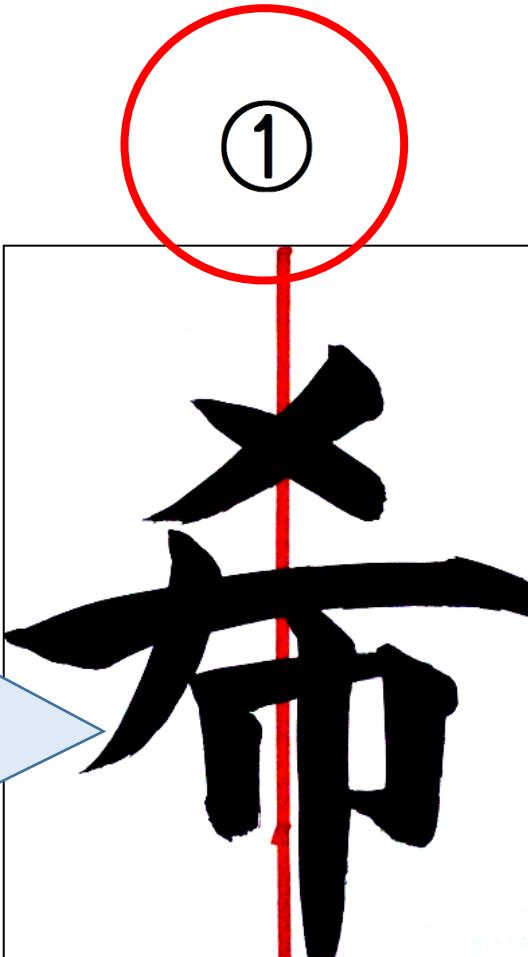
内外の組立方に気をつけて書く

「中心をずらす」方が良い

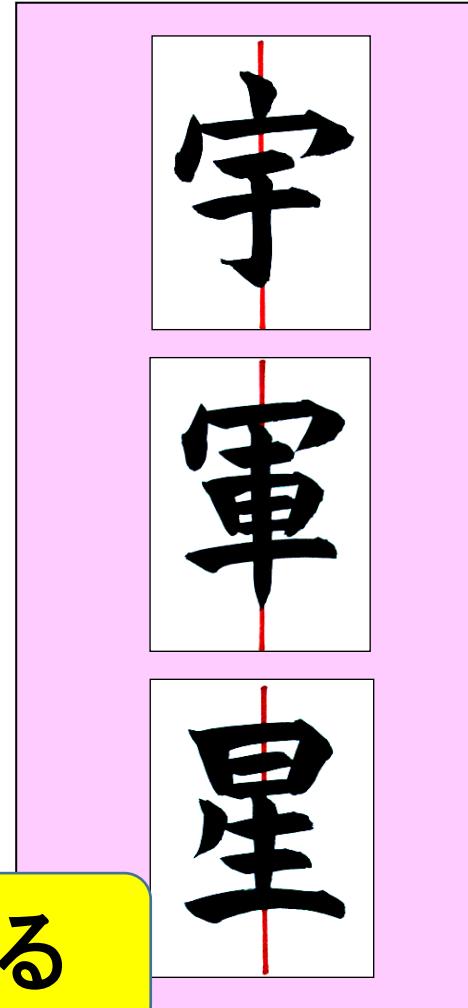
中心がずれるチーム



から
漢字の左に
左払い」がある



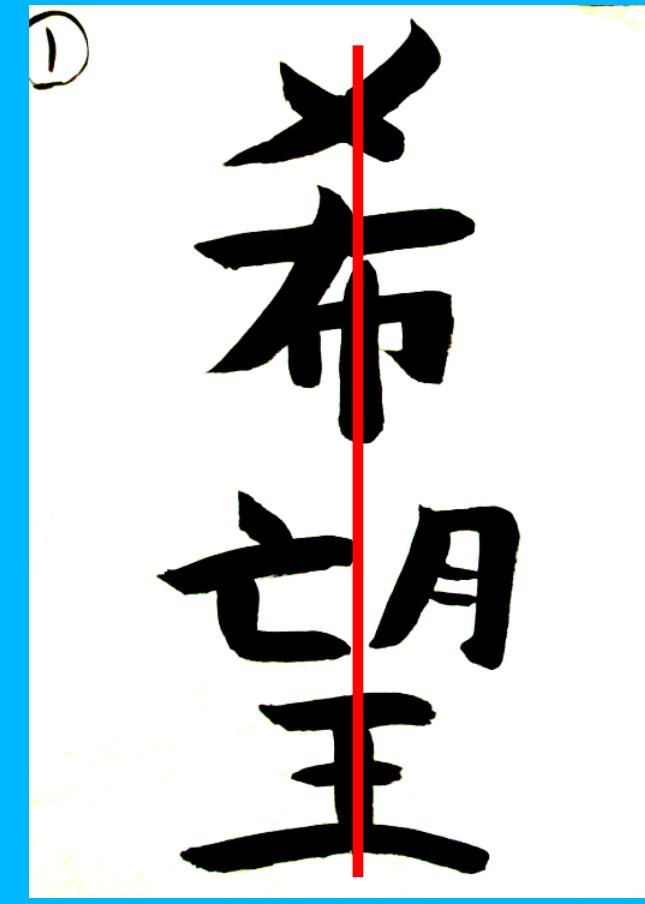
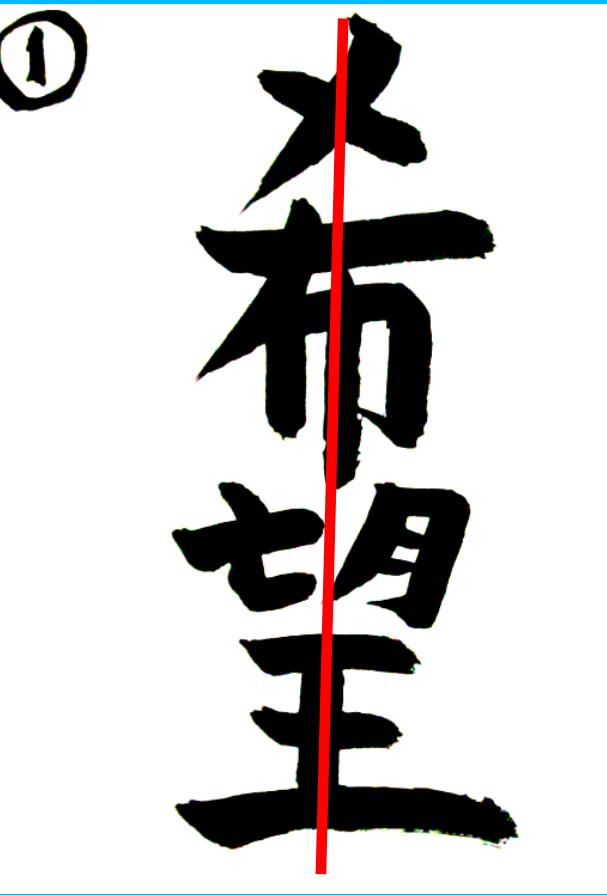
中心が通るチーム



原則 「左はらい」があると中心が右に寄る

内外の組立方に気をつけて書く

試書き・中心がそろっている

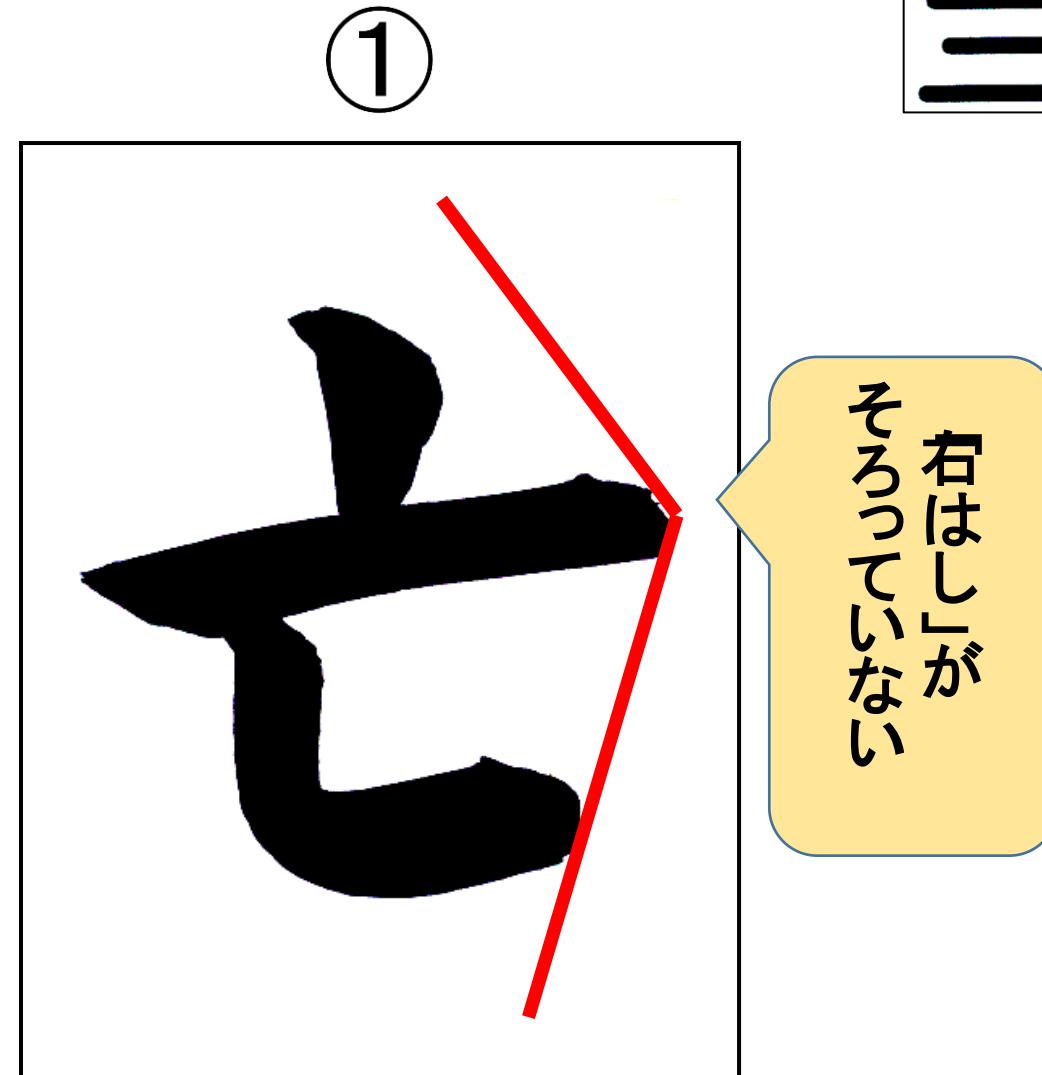
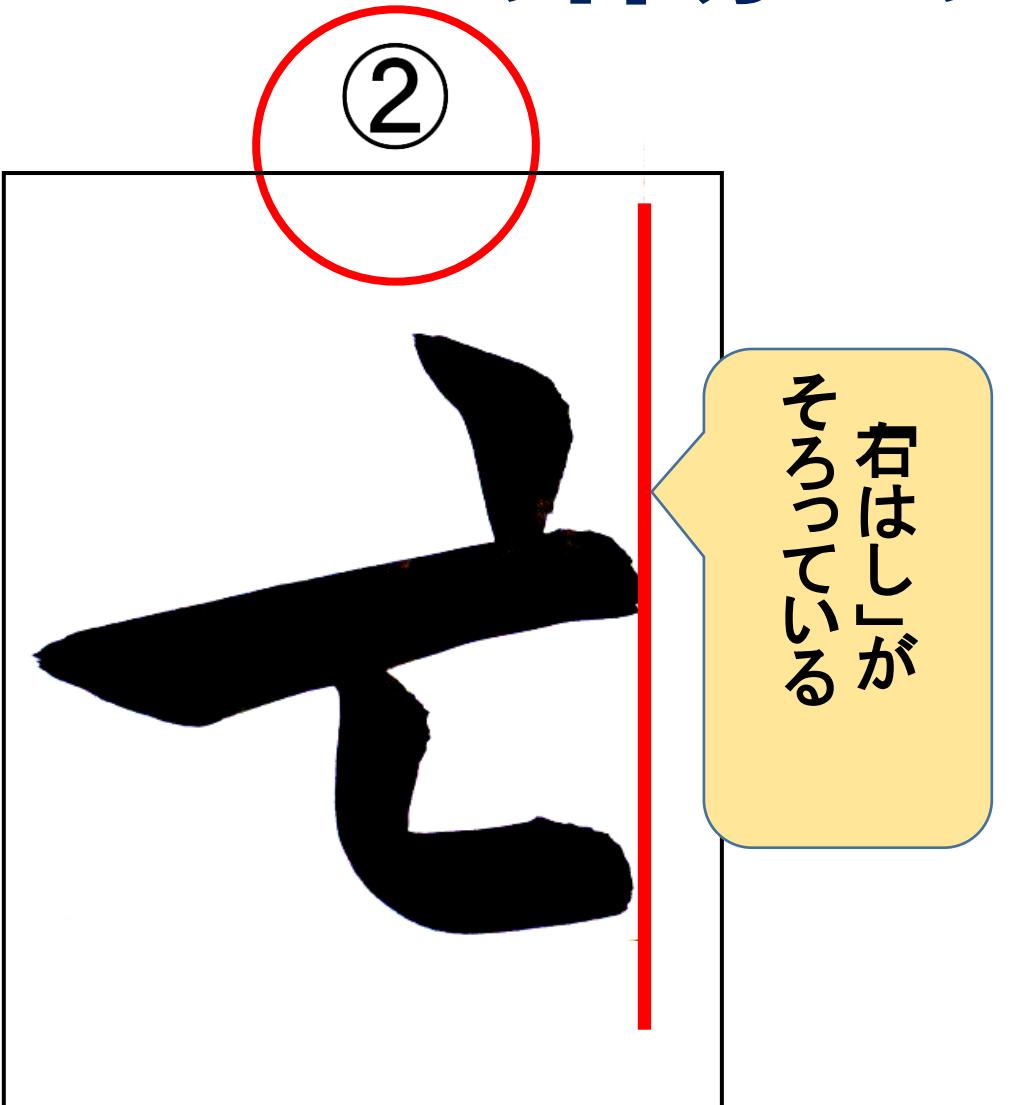


手本を見ないで書いた「希望」（児童の実態）

内外の組立方に気をつけて書く

「三つの部分」の原則①（左上部分）

亡月
主



三つの部分の組立方方に気をつけて書く

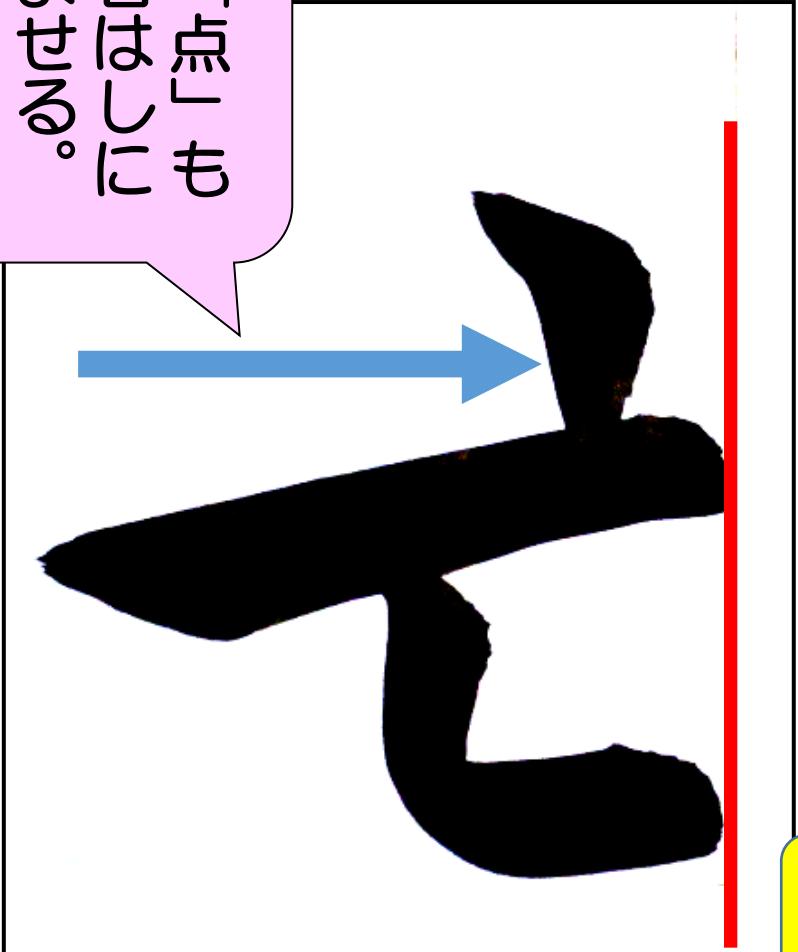
どうして「右端のそろった」方が良いか

＜原理＞

亡月
主

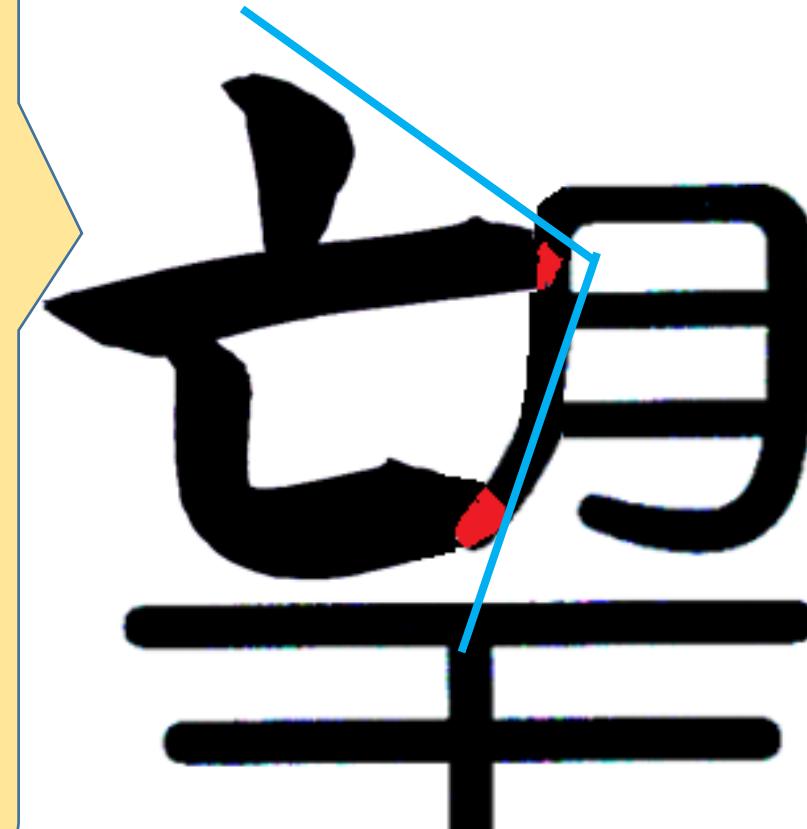
②

右はしに
「点」も
よせる。



①

右はし「がそろっていない
左上部分」は「月」とぶつかる



原則①右端をそろえる(左上部)

三つの部分の組立方に気をつけて書く

試書き・右はしがそろってない

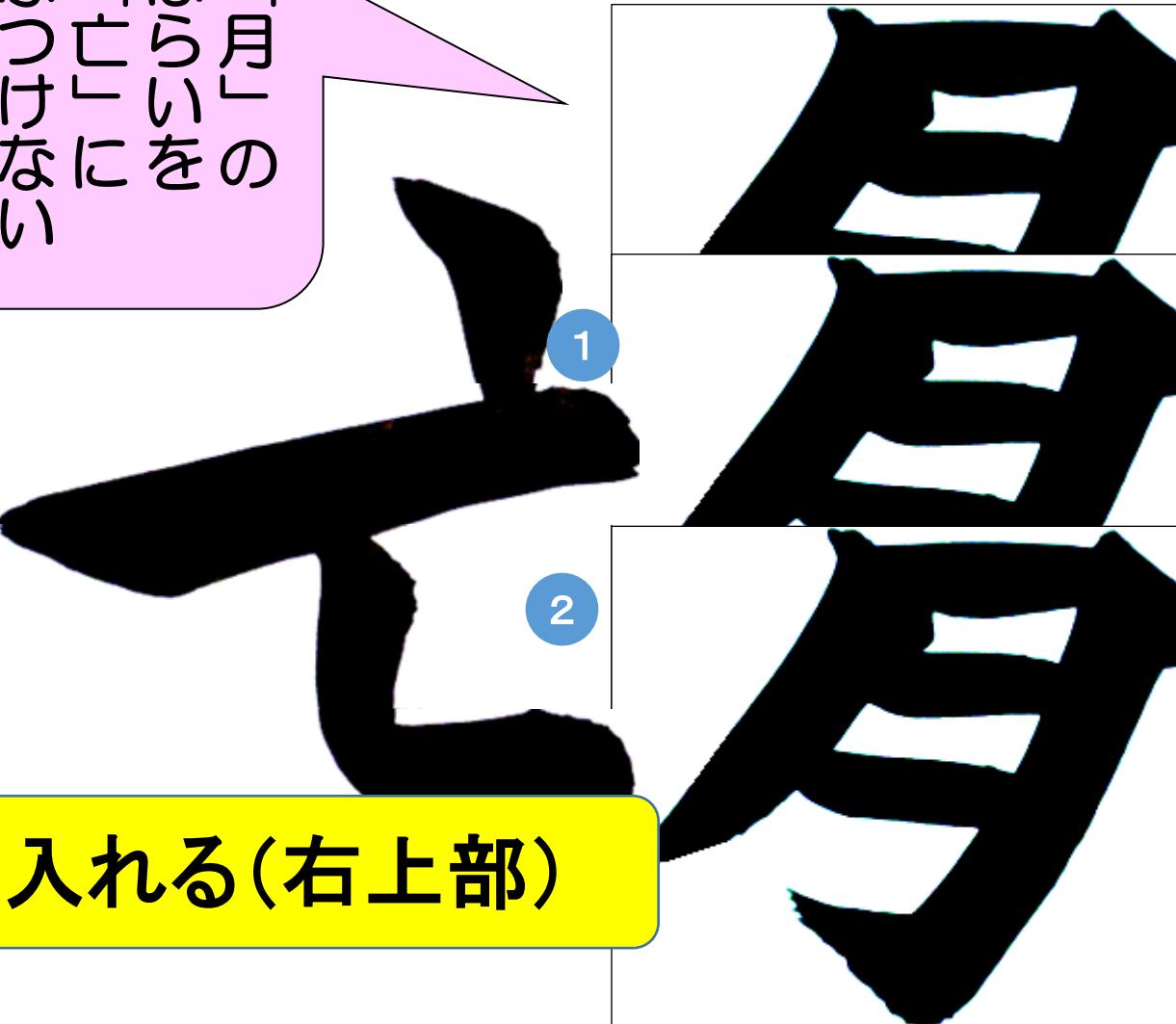


手本を見ないで書いた「希望」（児童の実態）

三つの部分の組立方に気をつけて書く

「三つの部分」の原則②（右上部分）

「月」の
はらいを
「亡」に
ぶつけない
ため、横画
を避けて
どこにはめ
込むか？

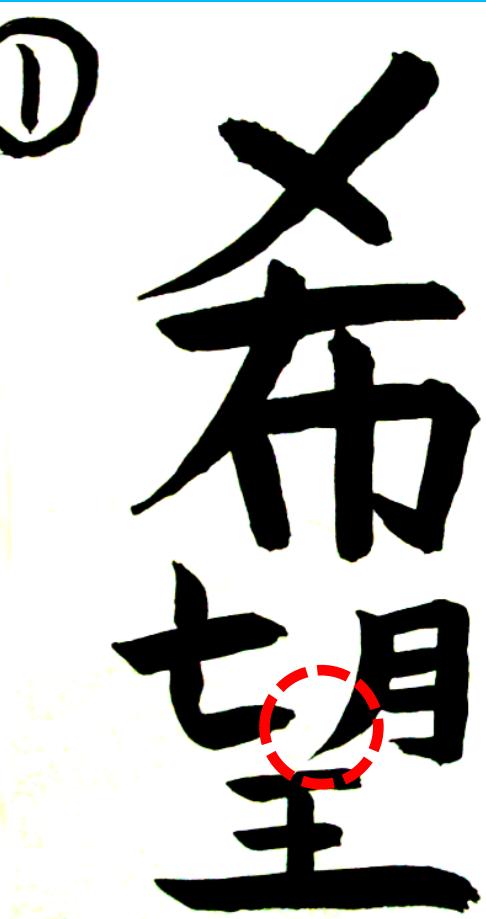


原則②月を間に入れる(右上部)

亡月主

三つの部分の組立方に気をつけて書く

試書き・横画の間に入ってない



手本を見ないで書いた「希望」（児童の実態）

三つの部分の組立方に気をつけて書く

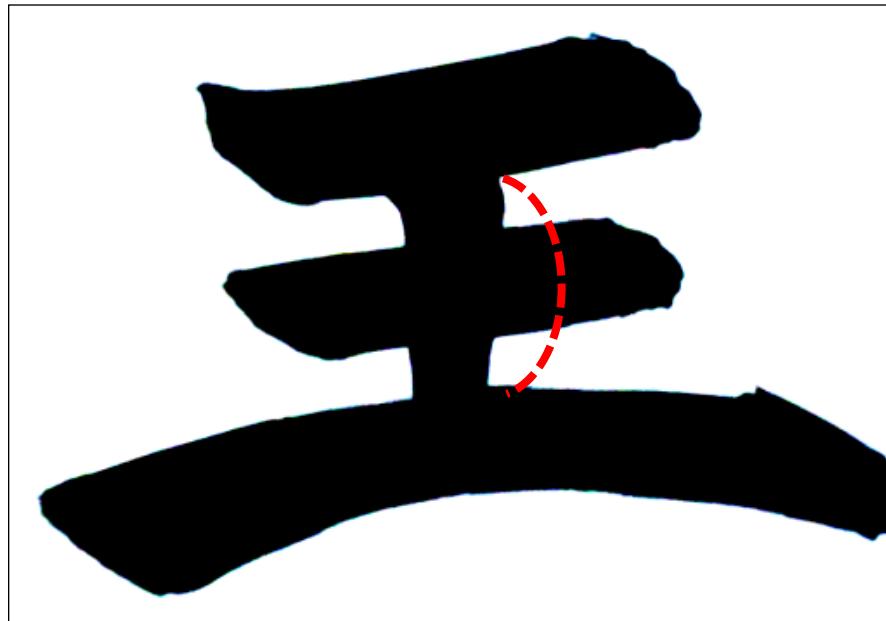
「三つの部分」の原則③（下部分）

どちらの「王」が良いだろう

亡月
王

原則③王の縦画を短く（下部）

①



三つの部分の組立方に気をつけて書く

「三つの部分」の原則④（全体）

亡月
王

原則④中心に寄せる（全体）



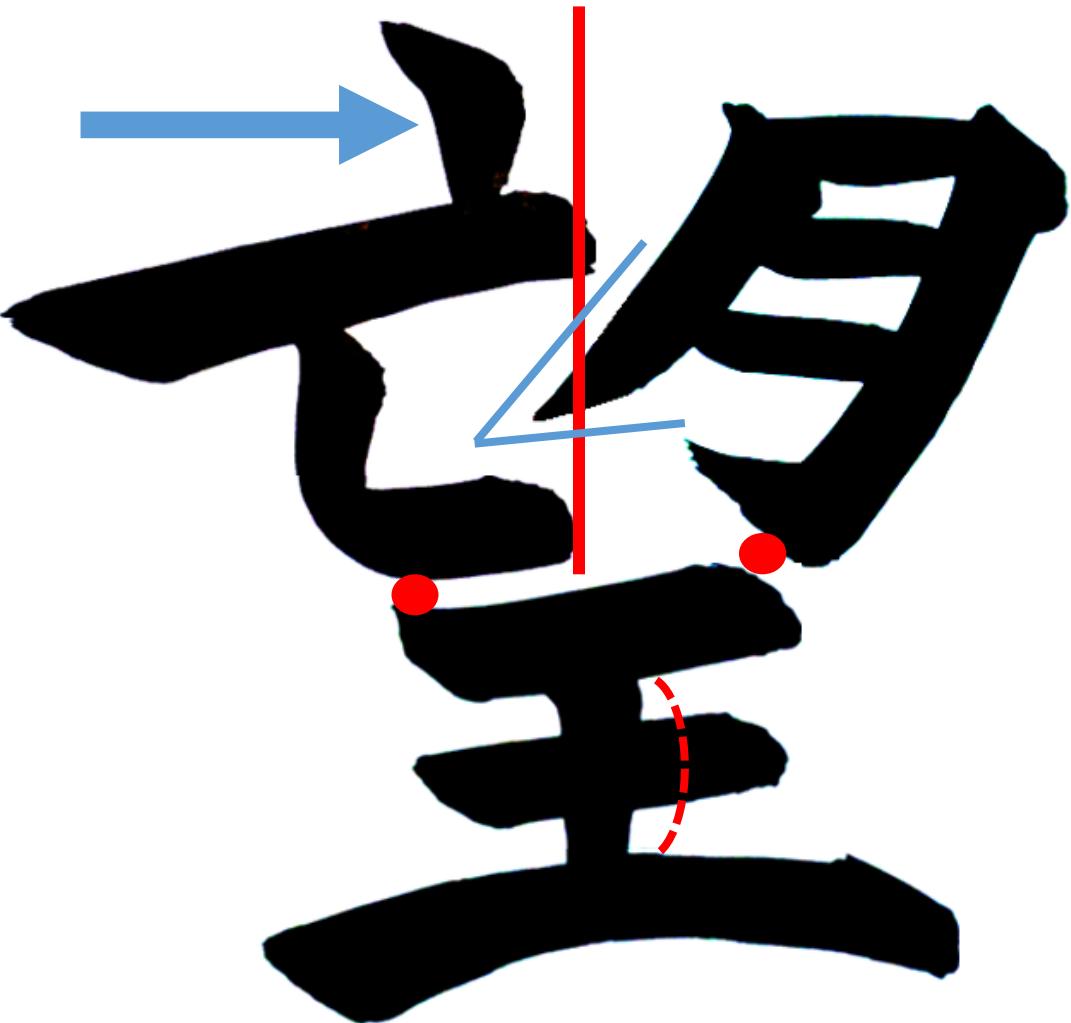
試書き・三つの部分が離れている



手本を見ないで書いた「希望」（児童の実態）

三つの部分の組立方に気をつけて書く

「三つの部分」の原則(まとめ)



月
三

- ①右端をそろえる(左上部)
- ②月を間にれる(右上部)
- ③たて画は短く(下部)
- ④中心に寄せる(全体)

三つの部分の組立方に気をつけて書く

「三つの部分」の原則（応用）

束
文
正

三つの部分の組立方に気をつけて書く

三つのせまい部分に上手く配置するため、それぞれの部分が譲り合つて工夫している



④中心に寄せる（全体）

③たて画は短く（下部）

②「はらい」を間にれる（右上部）

①右端をそろえる（左上部）

子どもに「手本」をわたす



「内外」の原則について書き込む

中心がずれるチーム



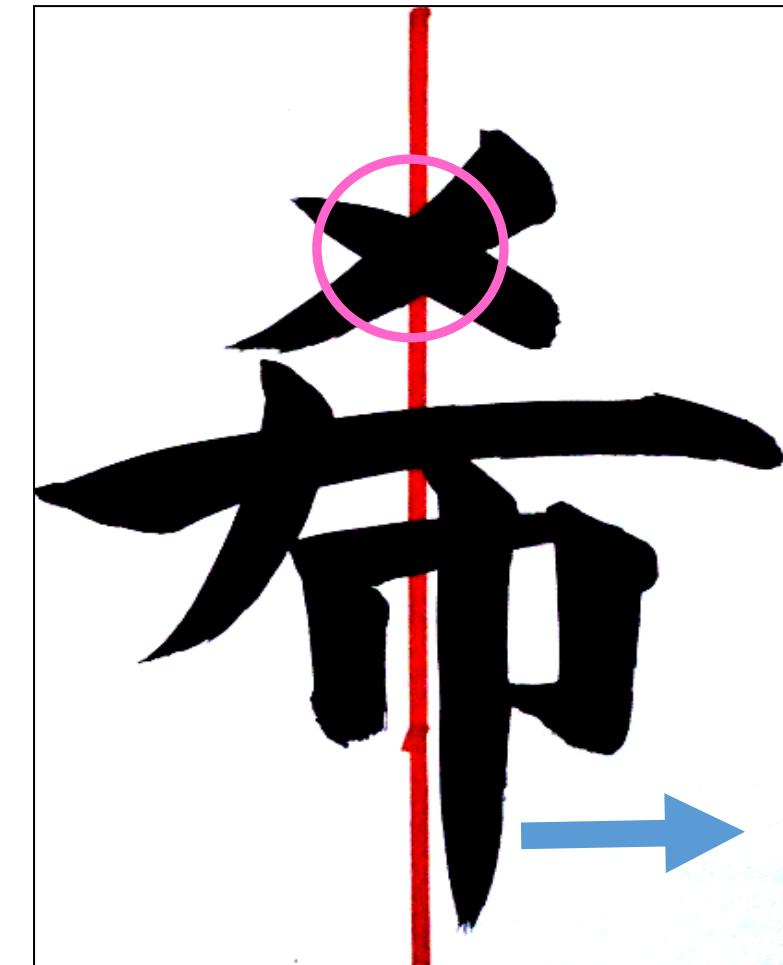
岸

「手本に書き込み」
目標を常に意識させる
※自分の書いたものに書き込みさせない



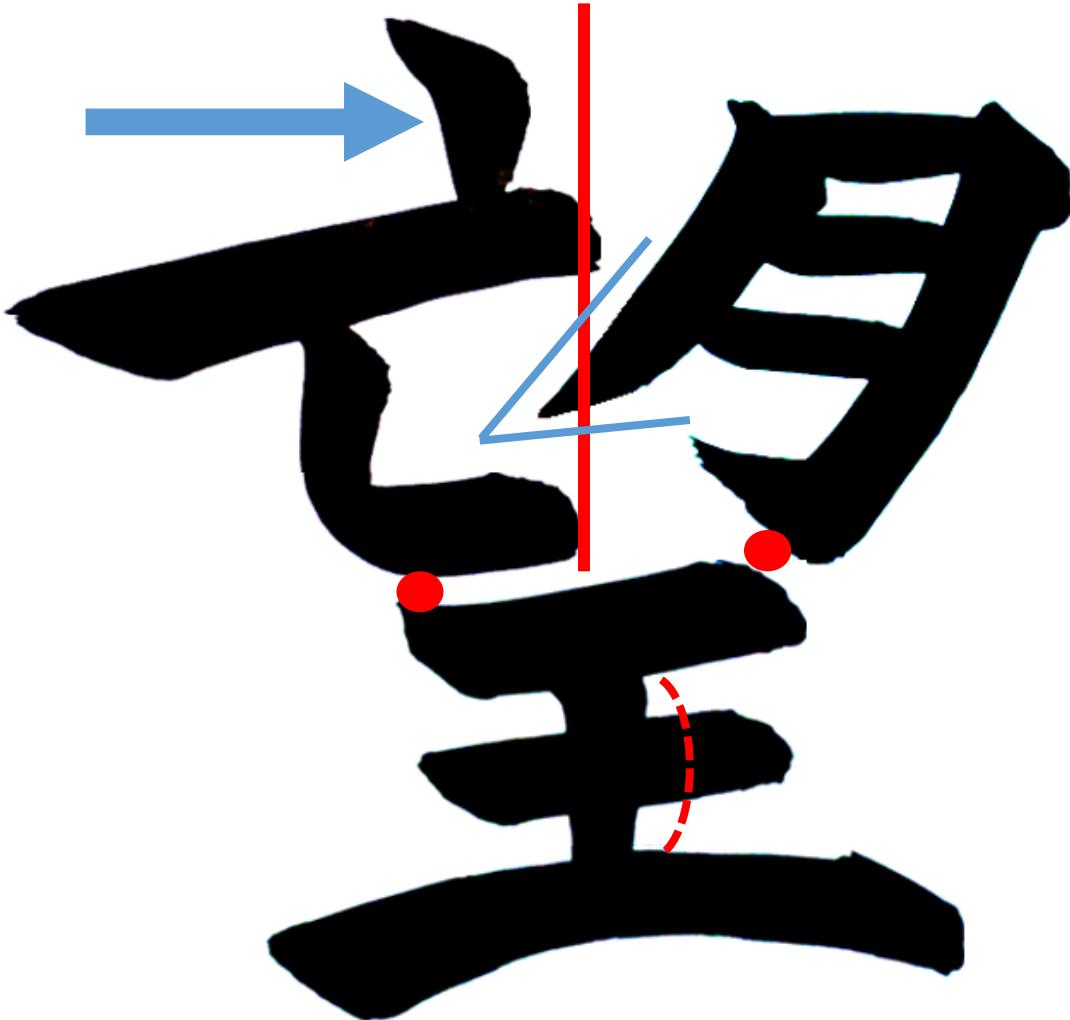
生

原則 「左はらい」があると中心が右に寄る



「三つの部分」の原則について書き込む

亡月
主



- ①右端をそろえる(左上部)
- ②月を間にれる(右上部)
- ③たて画は短く(下部)
- ④中心に寄せる(全体)

原則に当ては の答え合わせ

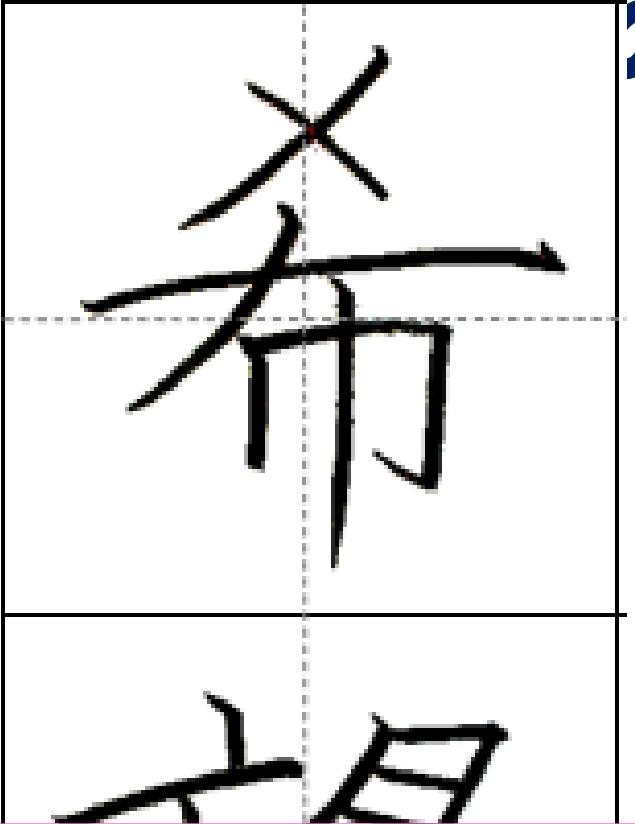
短い「せまい」では抽象的でわからない
ので、具体的な基準を示すこと

望

王

④中心に寄る

③たて画は短



三つの部分の組立て方の

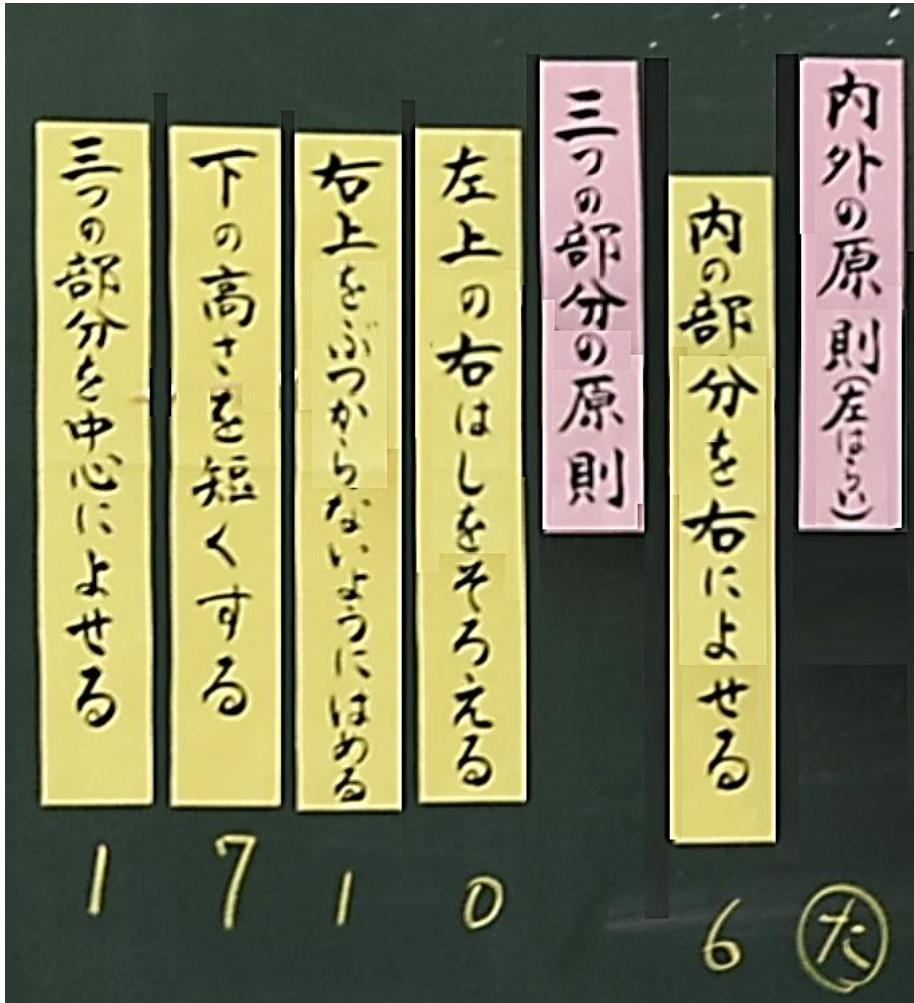
希

内の部分を右によせる

内外の組立て方の原則

「試書の答え合わせ」
自己課題が明確になる
※自分で気がつくので指摘されたのではない

子どもたちの実態を確認する



全12人

原則に当てはめて「試書」を確かめる

「手本」はノートの代わり
書き込むことで、自分の目標を立てる、自己課題を解決する力を育てる



自分で確かめる力、自分で学ぶ力、自分で考える力を育てる

氏名	
----	--

「見通し」を持って二枚目を書く



望

王

亡

セ

三つの部分の組立て方の原則

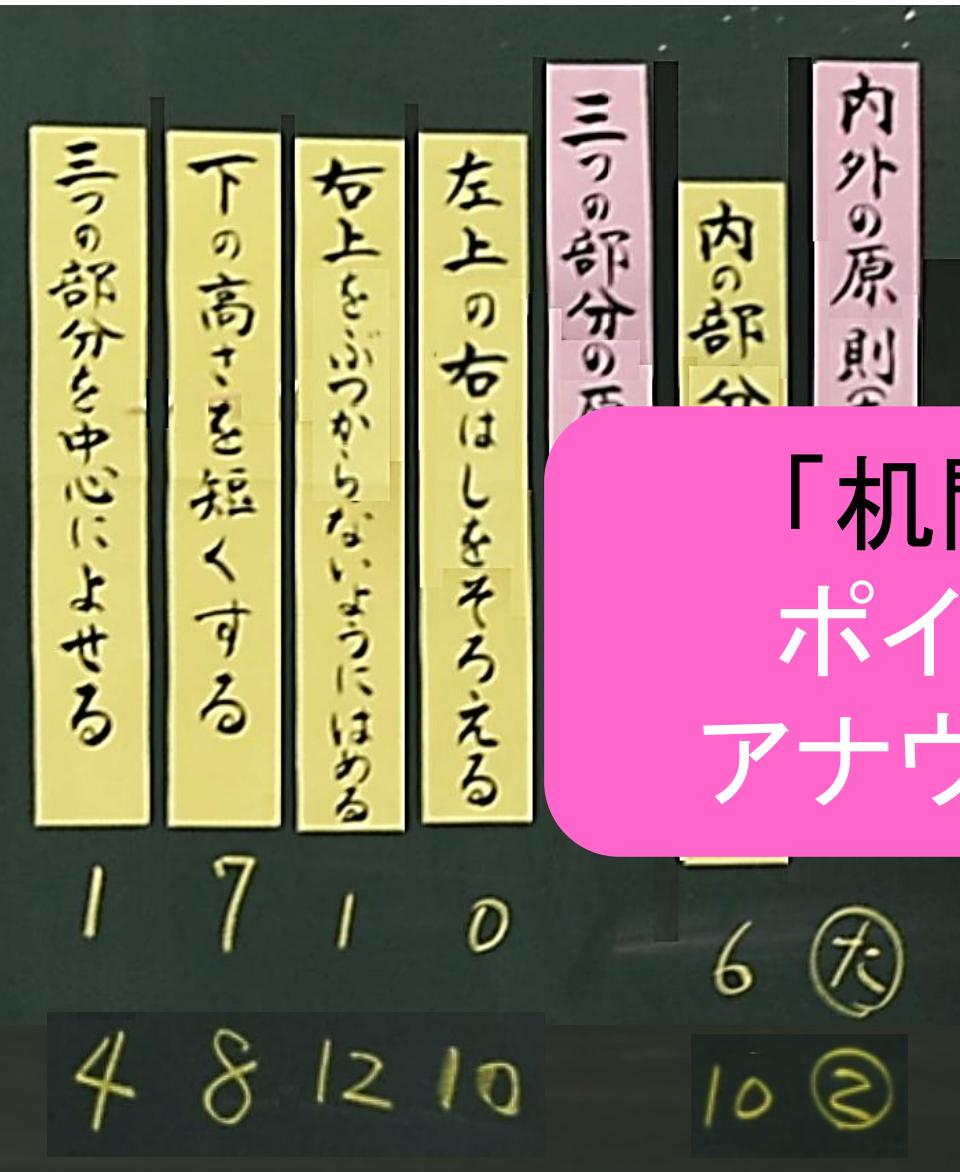
希

内の部分を右によせる

内外の組立て方の原則

「見通し」を持って二枚目を書く

「試書」と比較できるように示すことで、上達を実感させる。



「机間指導で評価する」
ポイントに沿って褒める
アナウンス効果を活用する

全12人

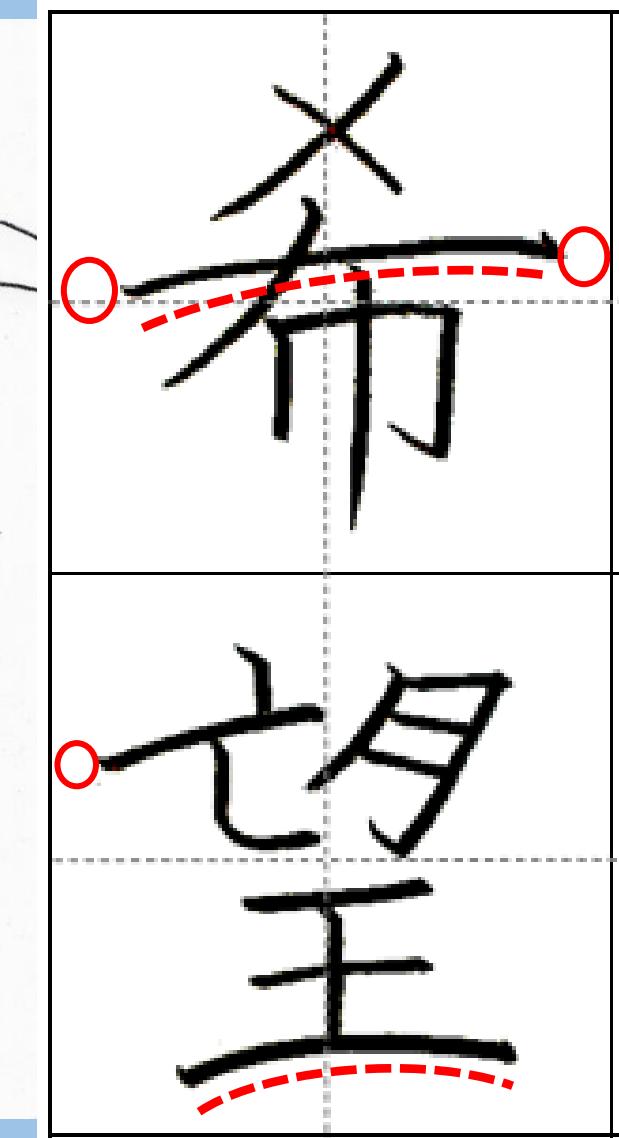
氏名		
組立方(内外・三つの部分)		
まとめ書き	①ためし書き	
希		
望		
③三回目	②二回目	

「まとめ書きの前のなぞり書き」

毛筆が苦手な子を救う

成功体験をさせ意欲を高める

かご字練習用紙とまとめ書き



「試し書きとまとめ書きの比較」

自分の成長を実感させる
達成感と意欲を高める



必ず
「ねらい」に
沿って振り返る
内外・三つの部分
の原則について向
上した点を発表さ
せる。

振り返り

布 月 望

試し書き

布 月 望

まとめ書き

2時間目・既習事項を活用して自己課題の解決

単元②既習事項の活用



筆順と画の接し方
先に書く方が出る

内外の組立方(にょうのきま)
①点をばなし
②下げる
③Dへじ字じ
④中の中部分が右に寄る
⑤長くはらう

画の長短③
右の「そり」は長い
左右の「たて画」は右が長い

漢字の大きさ①
左の大きい漢字は大きい
右の小さい漢字は大きい
左の大きい漢字は大きい
右の小さい漢字は大きい

内外の組立方(かまえのきま)
④下の空きが広い
⑤まわりの空きが狭い

漢字の大きさ②
①画数の少ない漢字は小さく
②画数の多い漢字は大きくなる
③かこみのある漢字は小さく

画の間は同じにはば
道

画の長短①
一本だけ長く、その他は同じ長さ

筆庄(たて画が横画に接する時)
たて画の上は「とつい」
たて画の下は「ほそい」

左はらいの方向①
左の「たてらじ」は「ひらく方向」

上下の組立方(かんむいのきま)
①高さを保く
②軸を変化
③下部をそろえる
④右端画の方向を変化

左右の組立方(へんのきま)
中心が右に寄る
左の「まろい」
右の「まろい」

画の長短②
「よこ画」より「とつい」が長い
「よこ画」より「ほそい」が長い

画の接し方
・口の中ない時は「横」が出る
・口の中にある時は「たて」が出る

たて画の方向
・たて長四角はまっすぐ
・よこ長四角はななめ

口国

左はらいの方向②
文字の上にある「左はらい」は「よこ方向」に
文字の下にある「左はらい」は「ひらく方向」

よこ画の方向①
上は「よこをる」
中は「まっすぐ」
下は「下にそる」

筆庄(よこ画が多い時)
たて画は「ふとい」
よこ画は「ほそい」

文字の中心
・「たて画」・「はらい」の交わり
・「点」・「たて画」の間

2個

4個

3個

主体的に学ぶ「ループ学習法」

「わりばし」を
確かめる
使用し、自分で
確かめる



手本」に書き込んで、
オーダーメイド手本
を作り自分の目標を
立てる

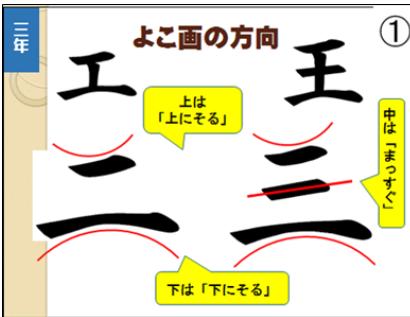
課題発見解決学習
個別最適な学習

「確かめ」のでき
ていなかつたこ
とに気をつけて
練習する

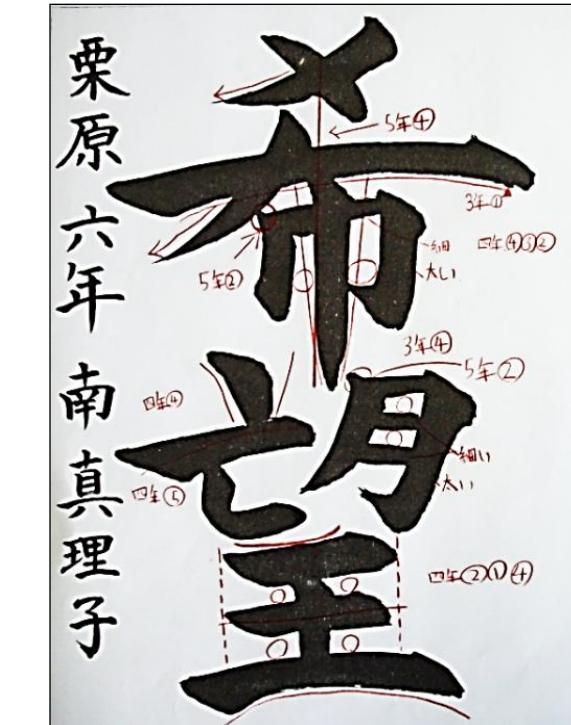
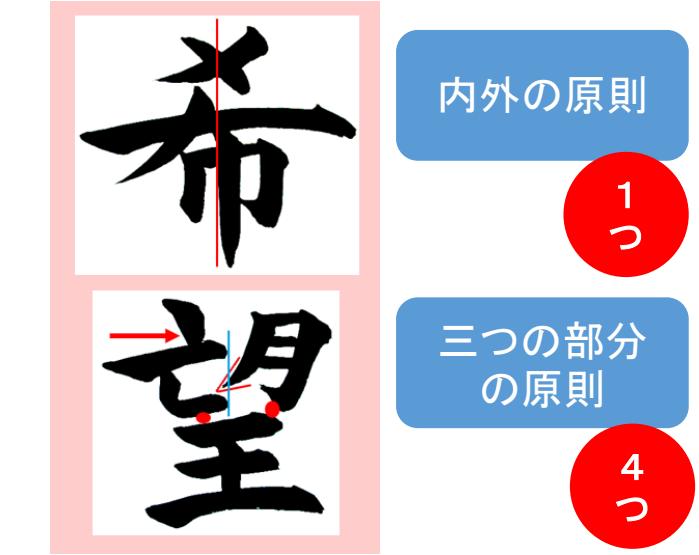


自分の目標に気を
つけて練習する

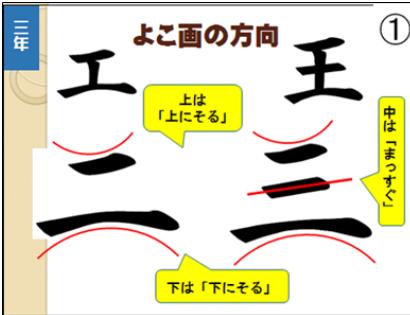
単元②既習事項の活用



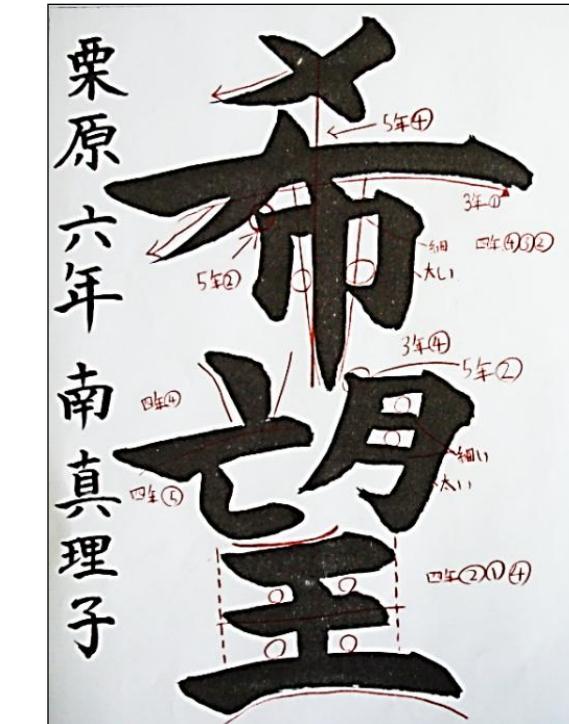
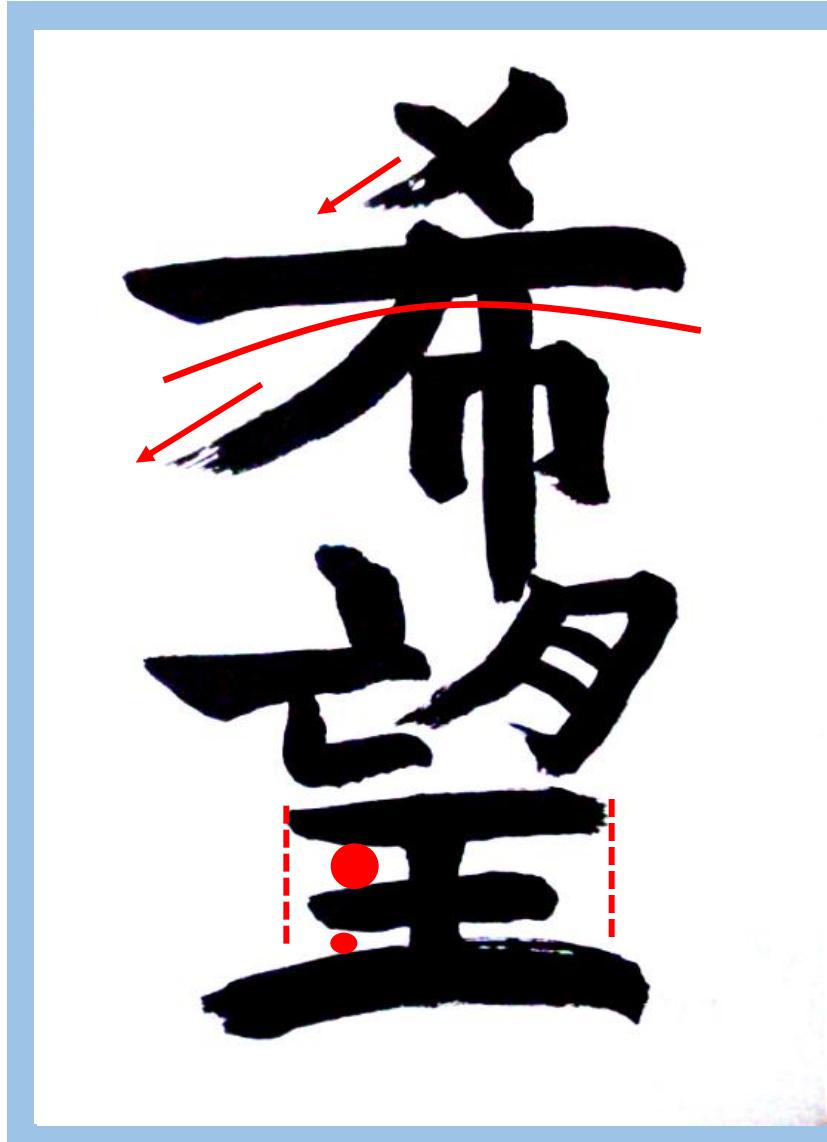
自己課題の改善①



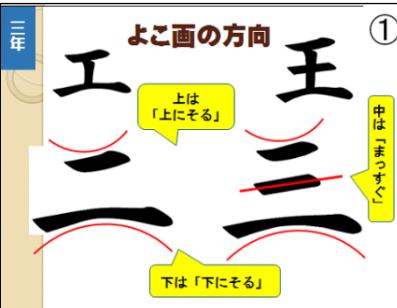
単元②既習事項の活用



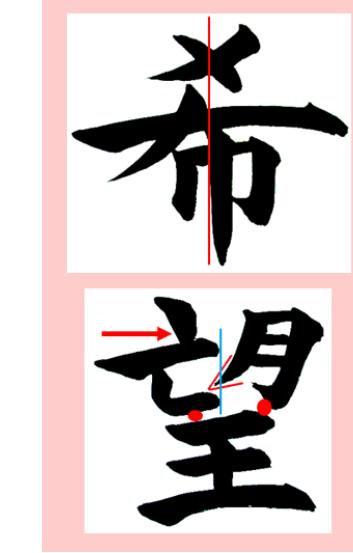
自己課題の改善①



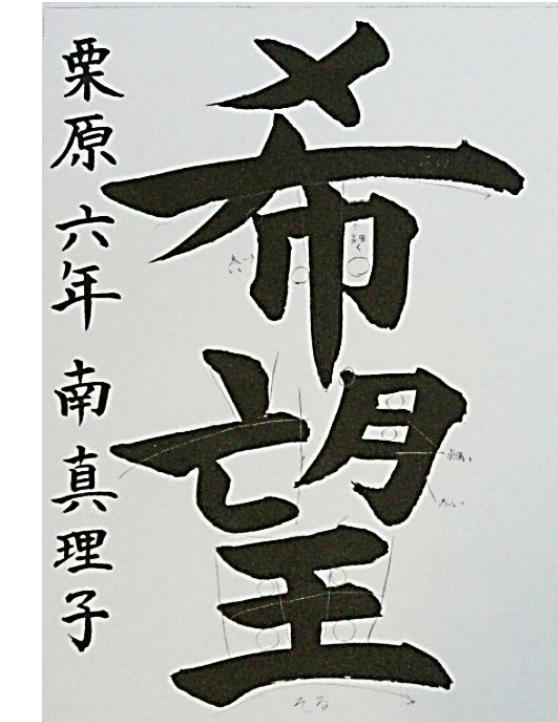
単元②既習事項の活用



自己課題の改善③

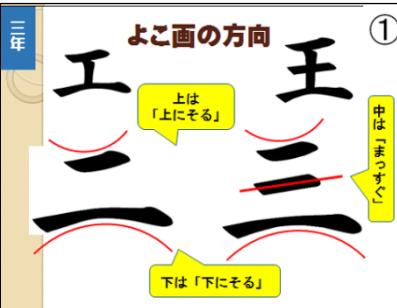


内外の原則

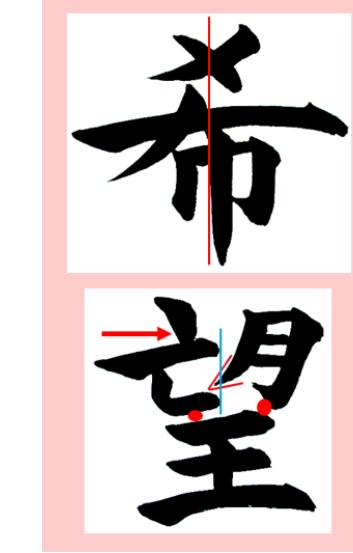


三個の部分の原則

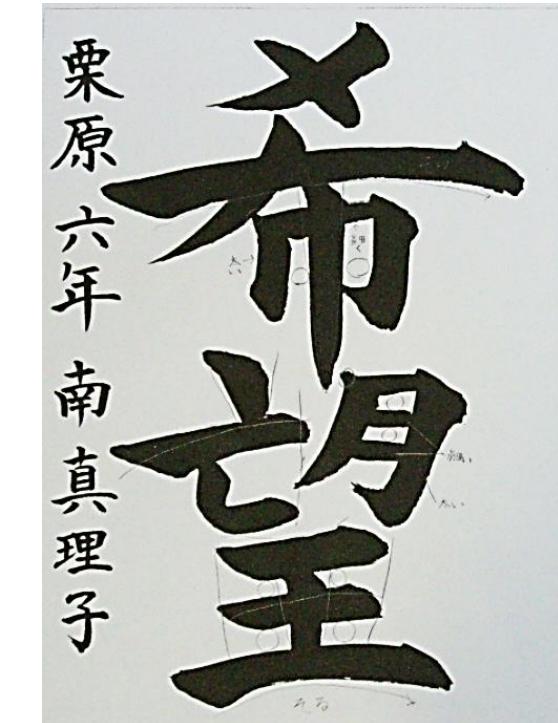
単元②既習事項の活用



自己課題の改善③

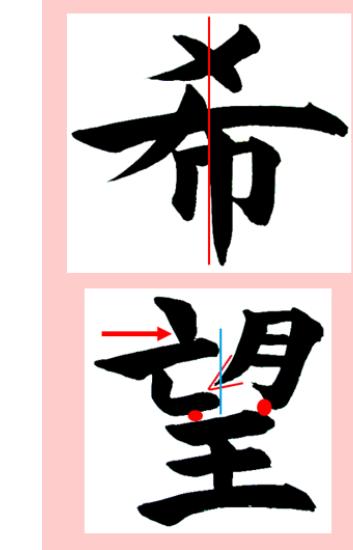
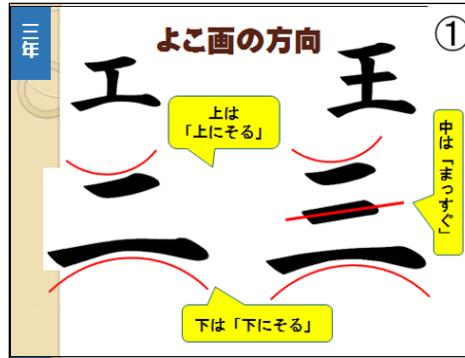


内外の原則

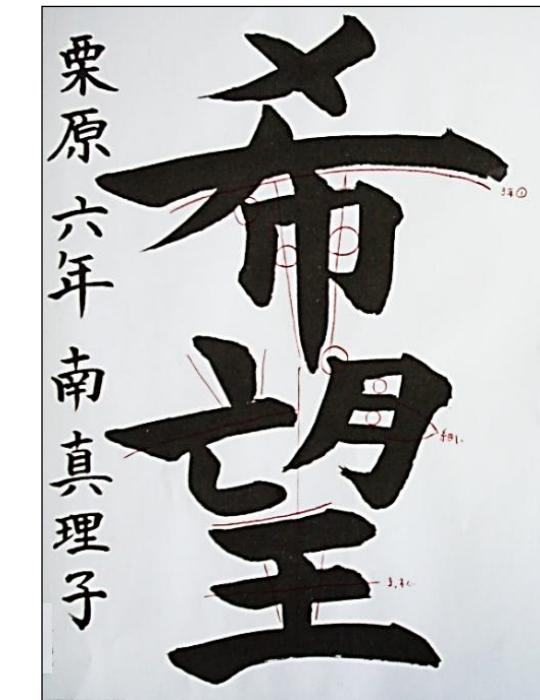


三個の部分
の原則

自己課題の改善④

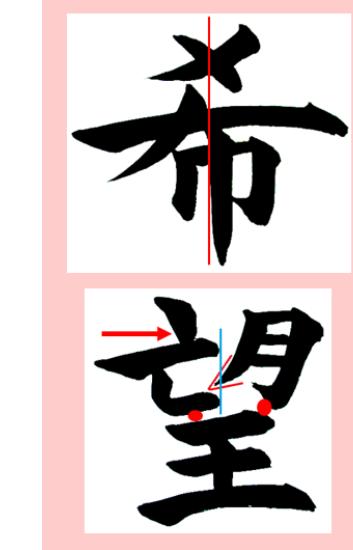
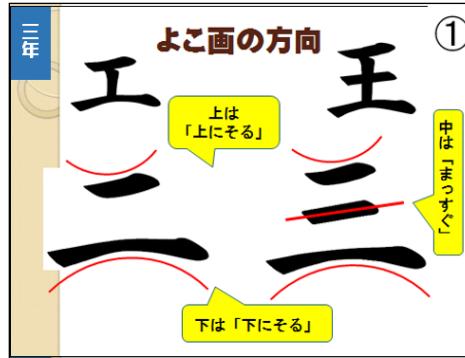


内外の原則

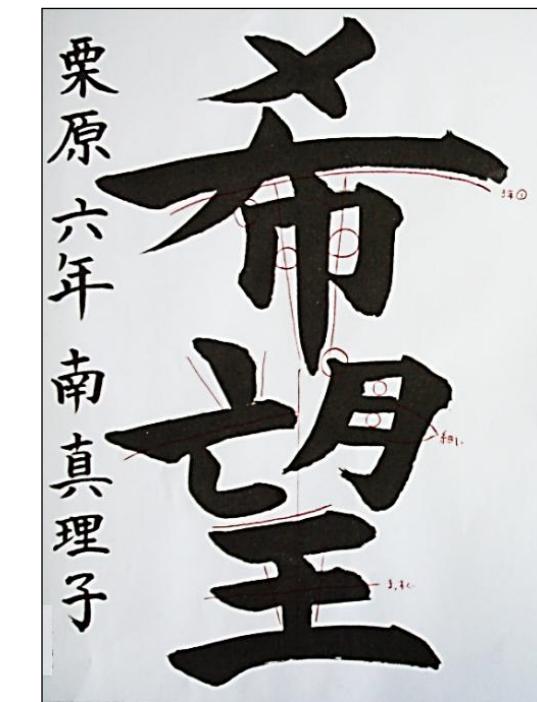


三個の部分
の原則

自己課題の改善④

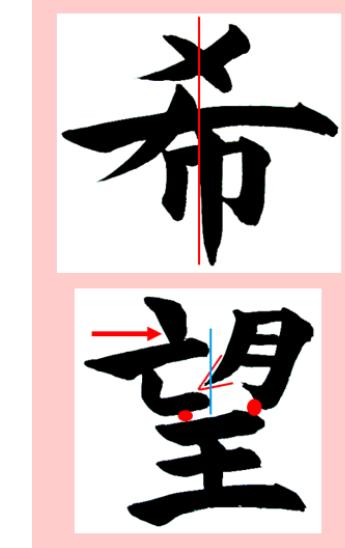
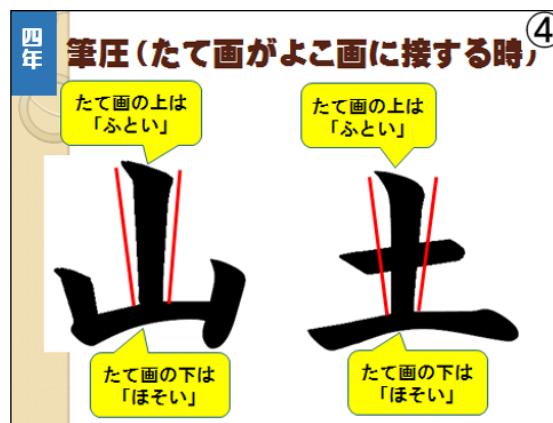
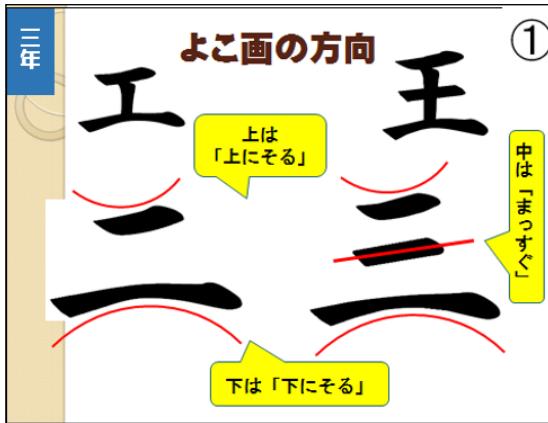


内外の原則

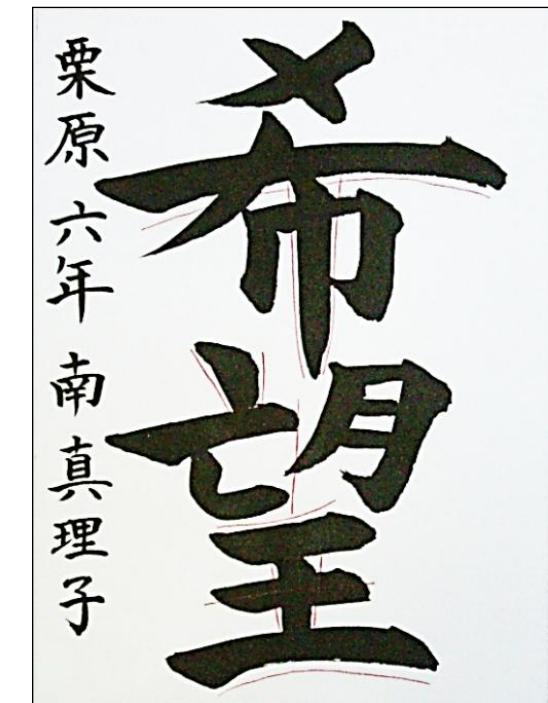


三つの部分
の原則

自己課題の改善⑤

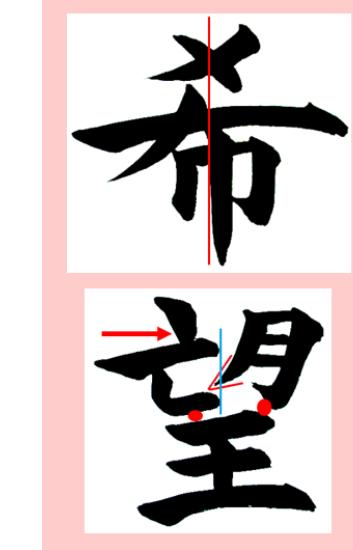
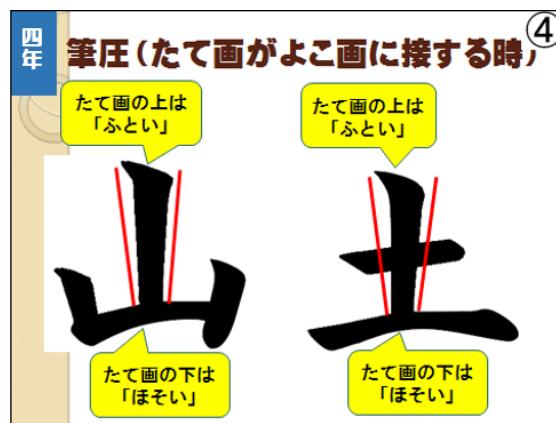
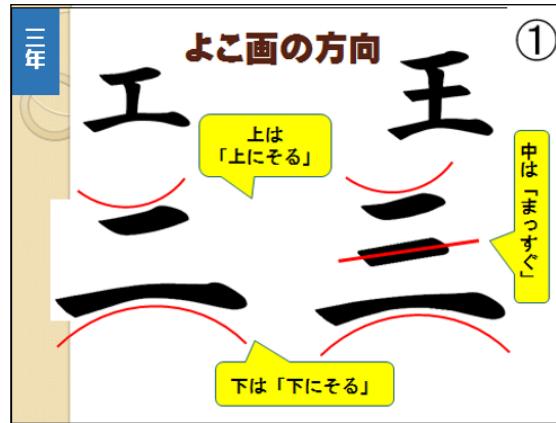


内外の原則

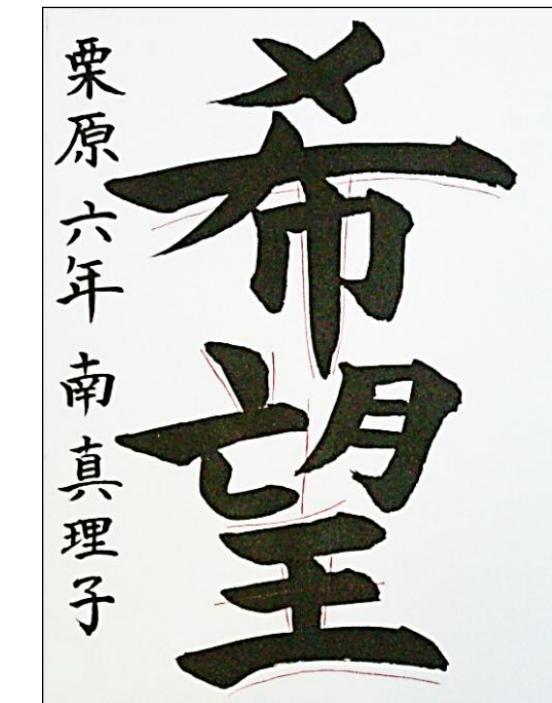


三個の部分
の原則

自己課題の改善⑤

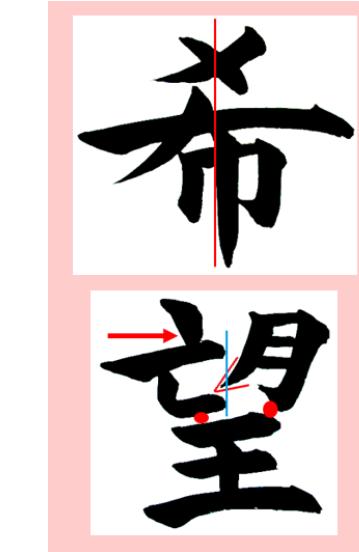
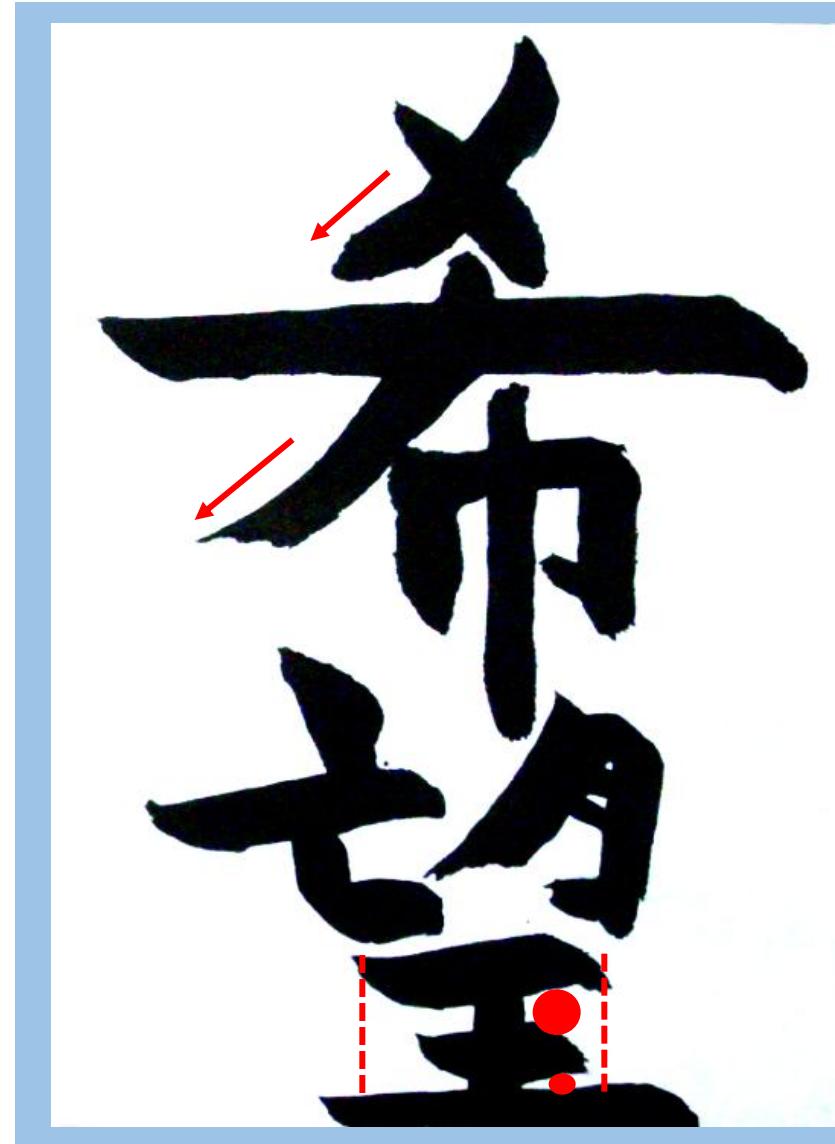


内外の原則

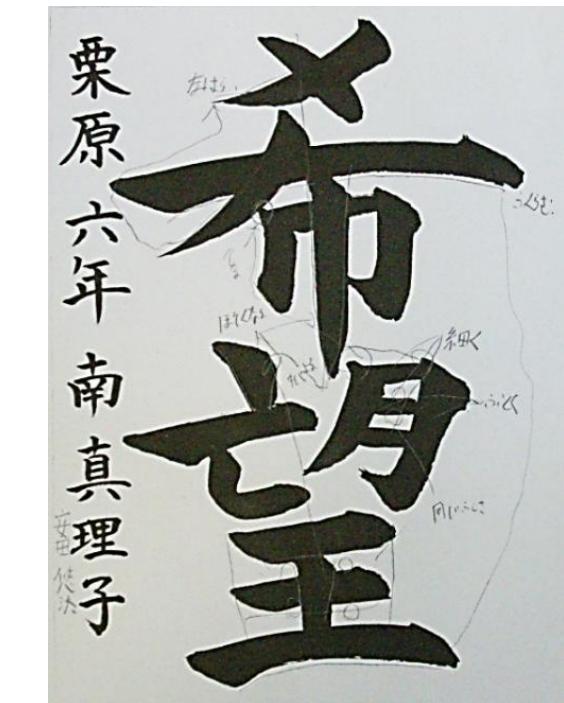


三個の部分
の原則

自己課題の改善⑧

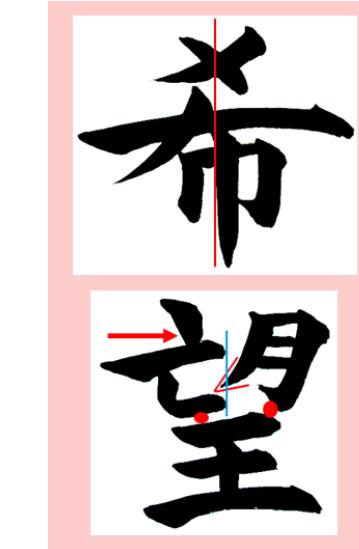
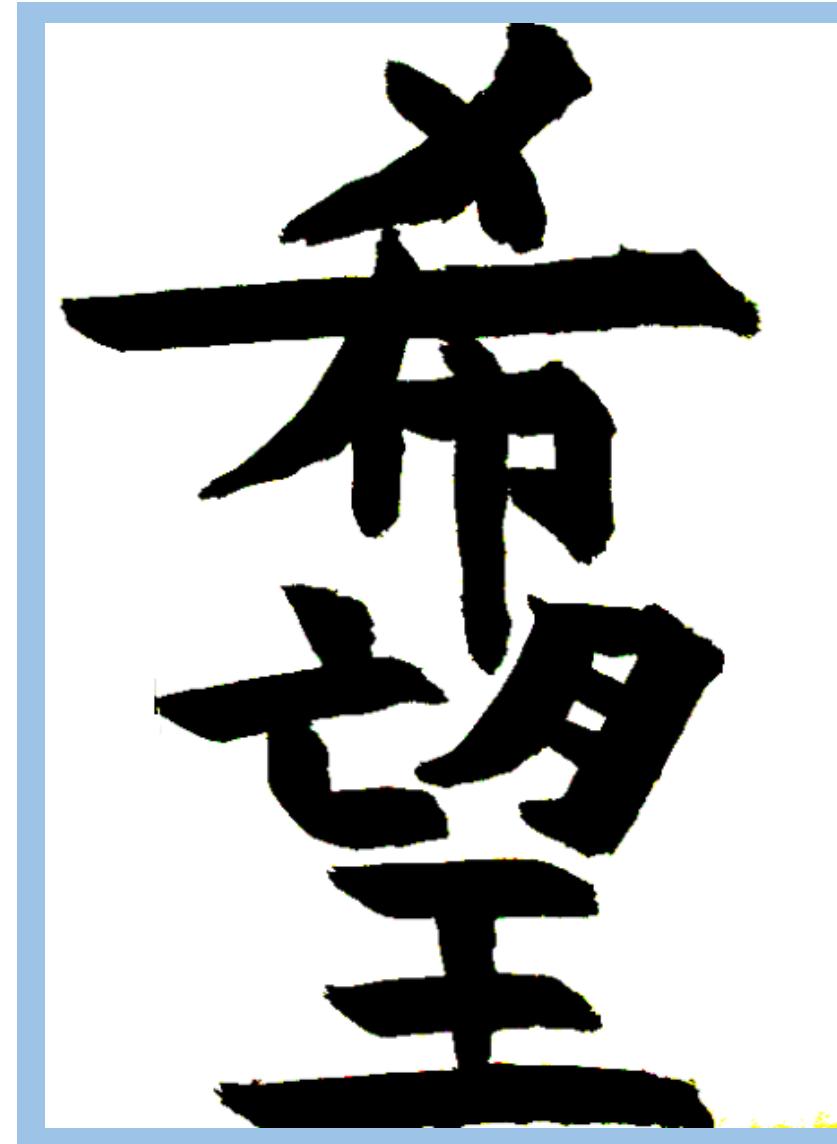


内外の原則

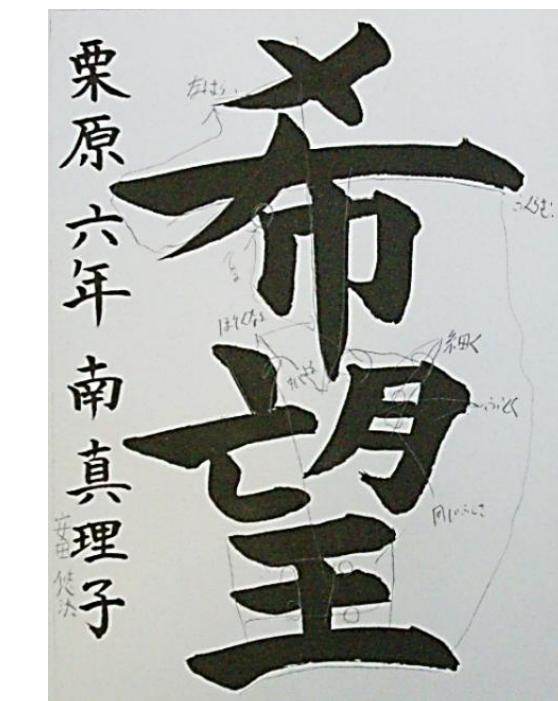


三つの部分の原則

自己課題の改善⑧

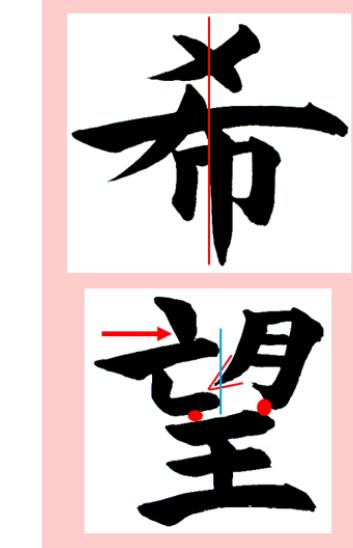
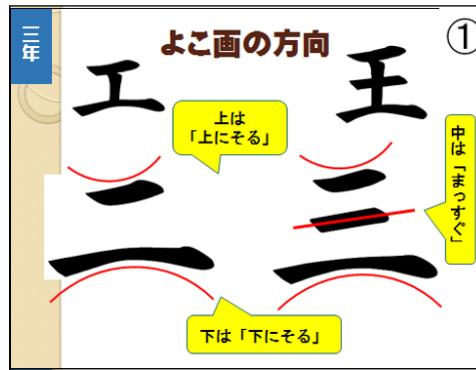


内外の原則

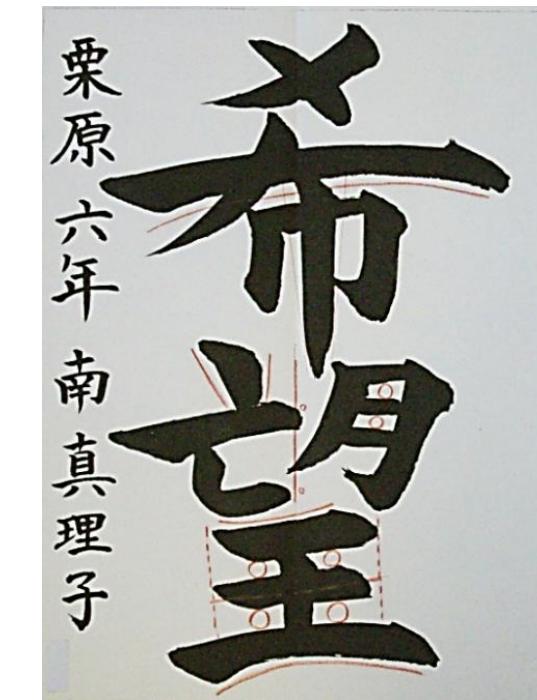


三つの部分の原則

自己課題の改善⑨

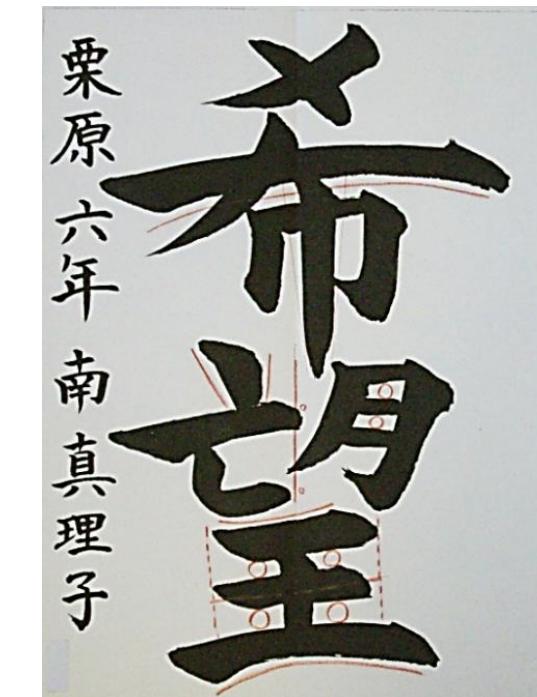
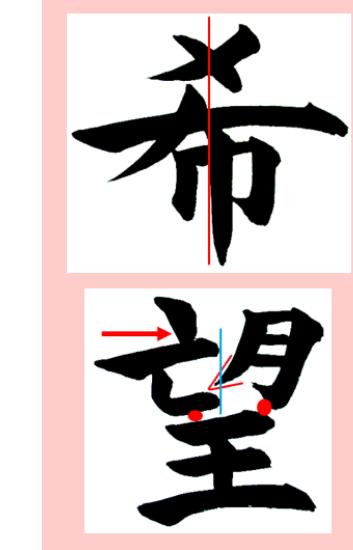
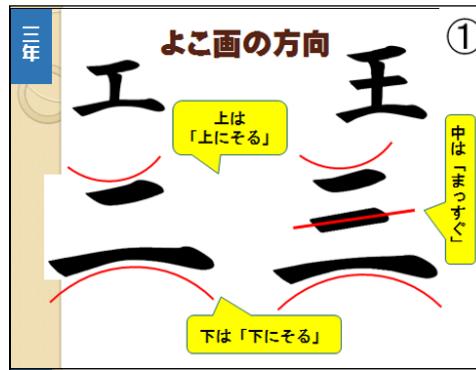


内外の原則

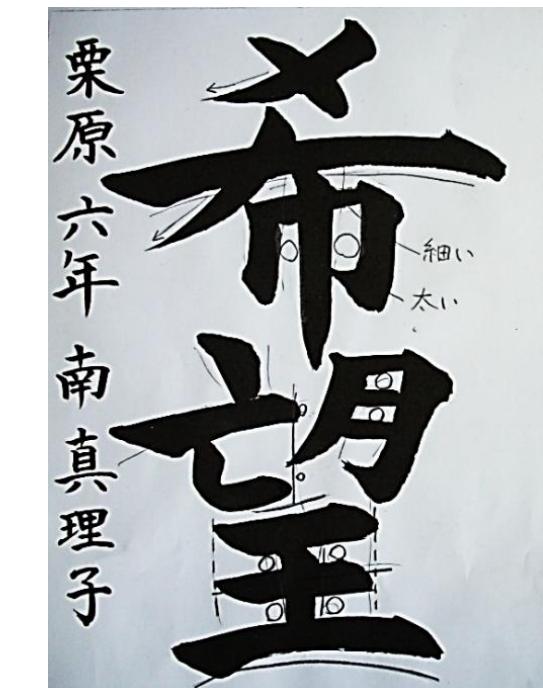
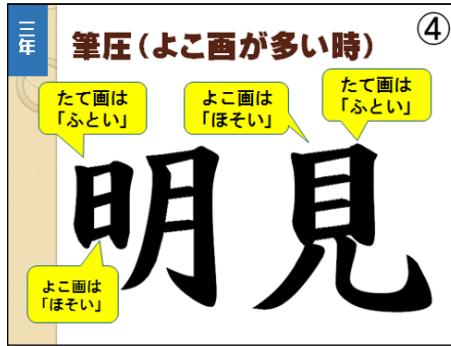


三個の部分の原則

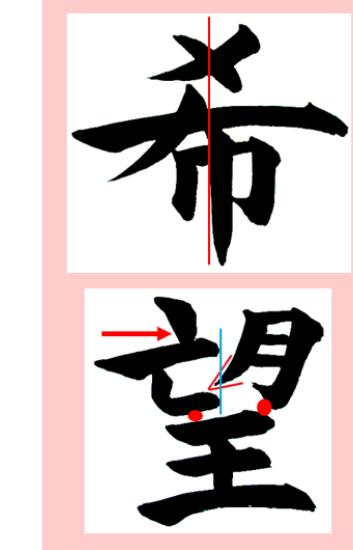
自己課題の改善⑨



自己課題の改善⑪



自己課題の改善⑪



内外の原則

三個の部分
の原則

ループ学習で
子どもの字は
必ず変わる

3時間目は硬筆で他字に応用・日常化

書写の原則（きまり）を「他の字」に生かす

单元③ 硬筆で他字に応用

本日の研修で新たに知ったこと、私が感じたこと		組立方(内外・三個の部分)
		三個の部分の原則
三個の部分の原則	内外の原則	
望	希	
整	庫	
努	岸	
熱	産	
貿	原	
賛	屋	
資	病	
染	座	



中学校でなぜ「行書」を学ぶのか

すただよふ
海のあとにも染ま

すや空の青
白鳥はかなしから



行書(ぎょうしょ)
中学校書写で学習

小学校と比べて学習する内容・スピード」が飛躍的に大きくなるので、ノートを速く書く必要があるため

「行書」の6つの特徴とは



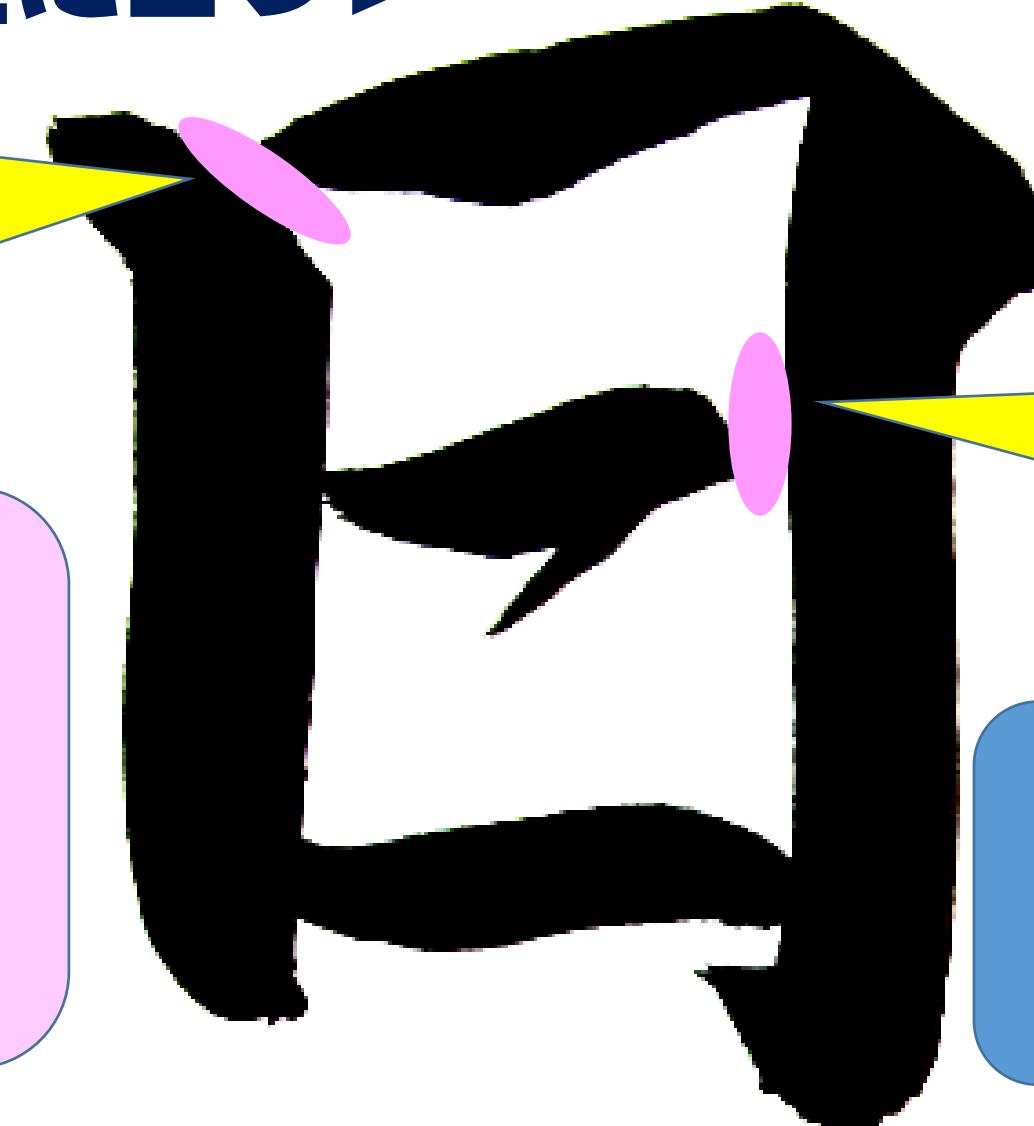
行書の基本原則

①行書には「離れる部分」がある <主に2つ>

日

①四角形の
左上

画を離すことで
少し画が短く
なり
その分速く書
くことができる

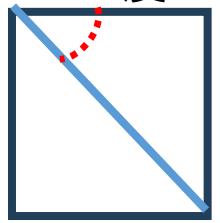


②四角形の
中の横画の右

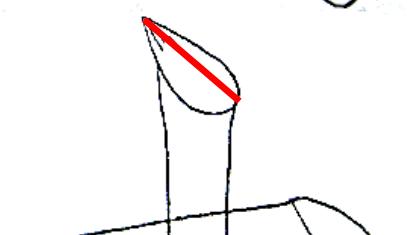
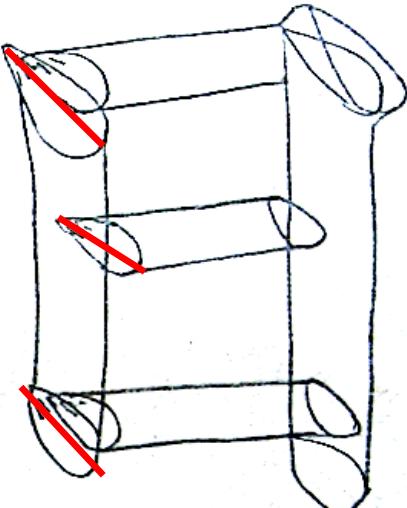
行書の基本原則①
接し方

②「始筆」の違いを確認しよう

45度

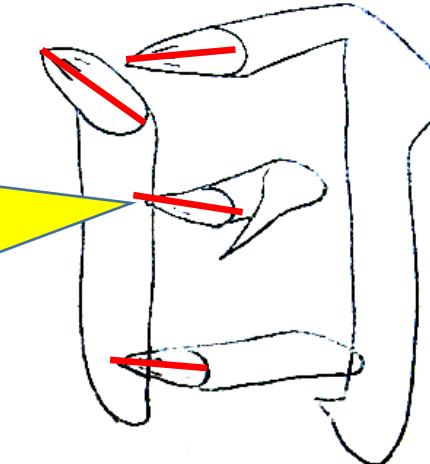


「楷書」はすべての画が
「ななめ方向」

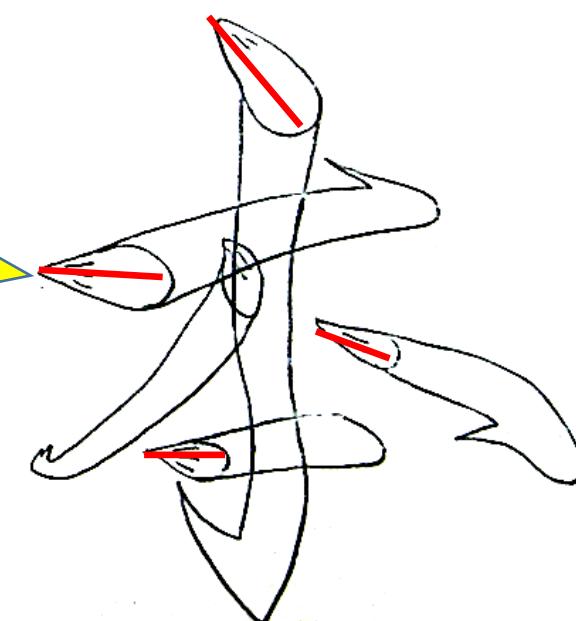


行書の基本原則②
始筆の方向

「横画」は
「よこ方向」



「横画」は
「よこ方向」



「行書」の始筆の角度は
「定ではない」

③「終筆」の違いを確認しよう



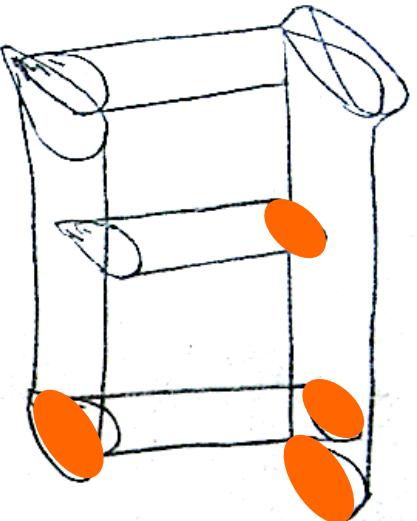
日本



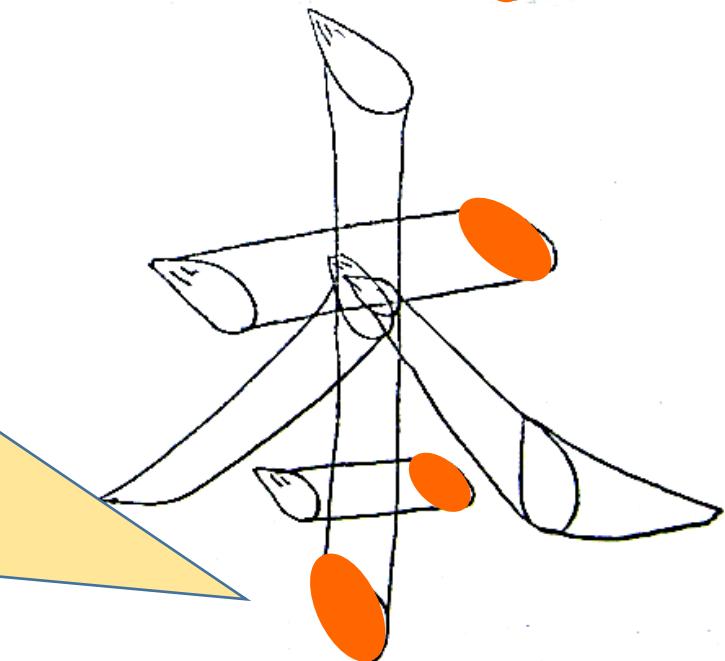
日本

横画・たて画の「終筆」の違いは

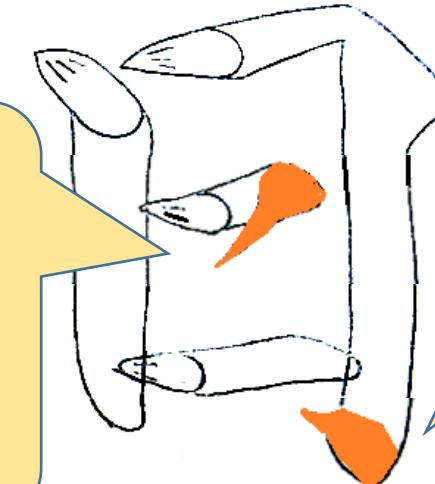
楷書「は横画が
止め」になつている



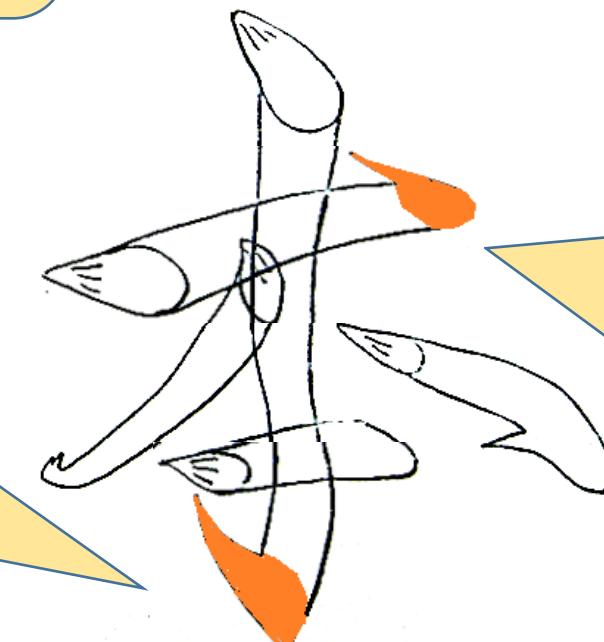
楷書「はたて画が
止め」になつている



横画「は
止め」た後に
はね



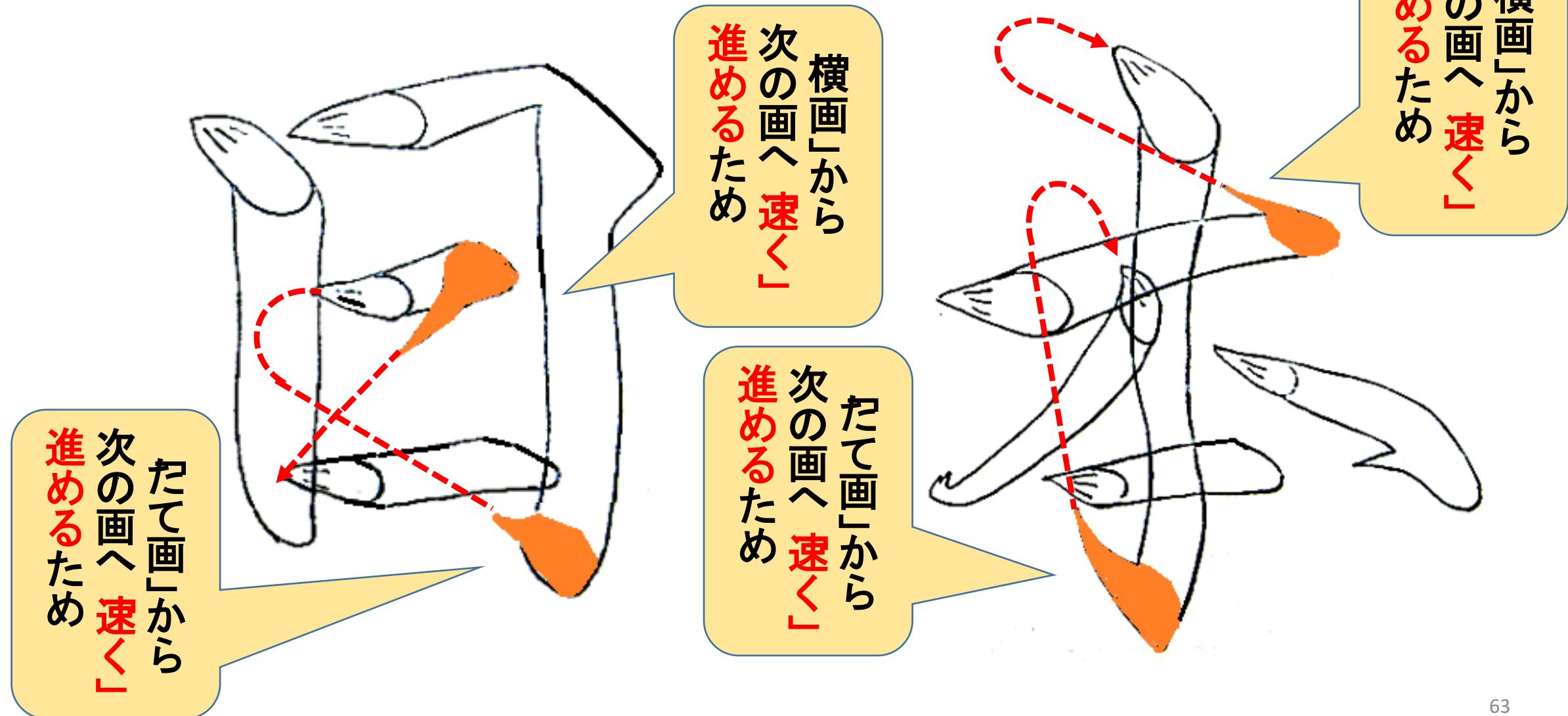
たて画「は
止め」た後に
はね



たて画「は
止め」た後に
はね

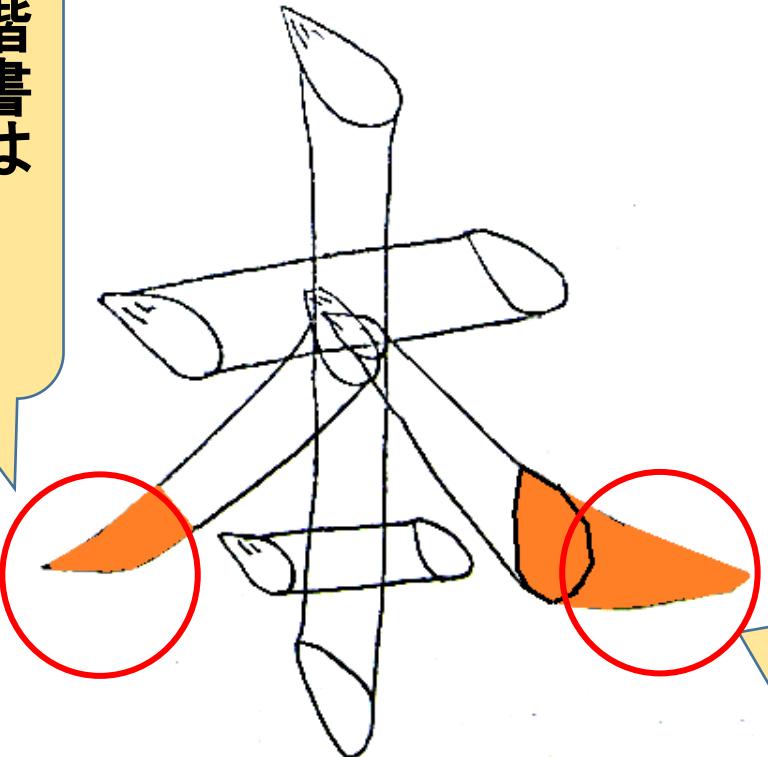
横画「は
止め」た後に
はね

なぜ「終筆」をはねるのか



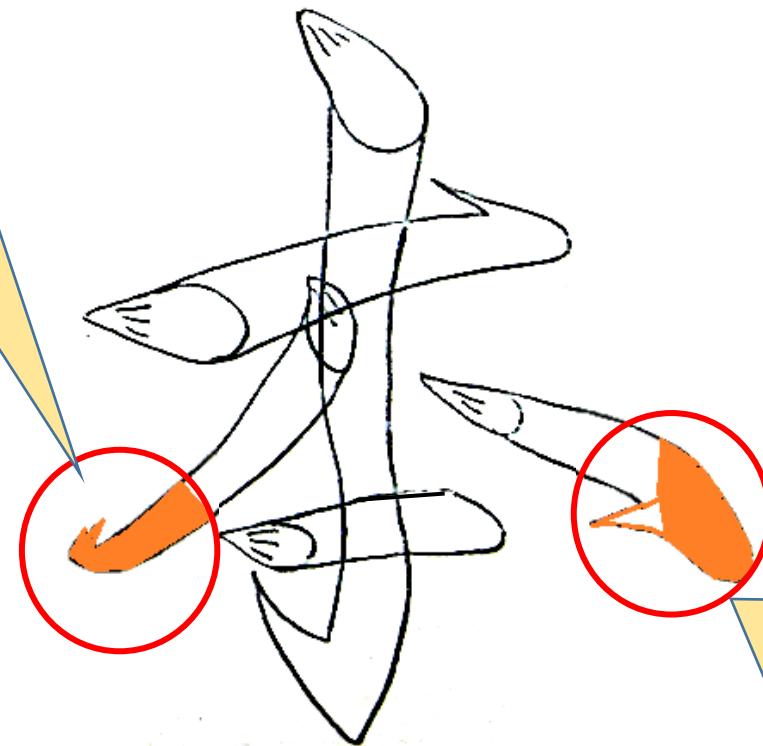
「左はらい・右はらい」の「終筆」の違いは

楷書は
左はらい「を
はらう



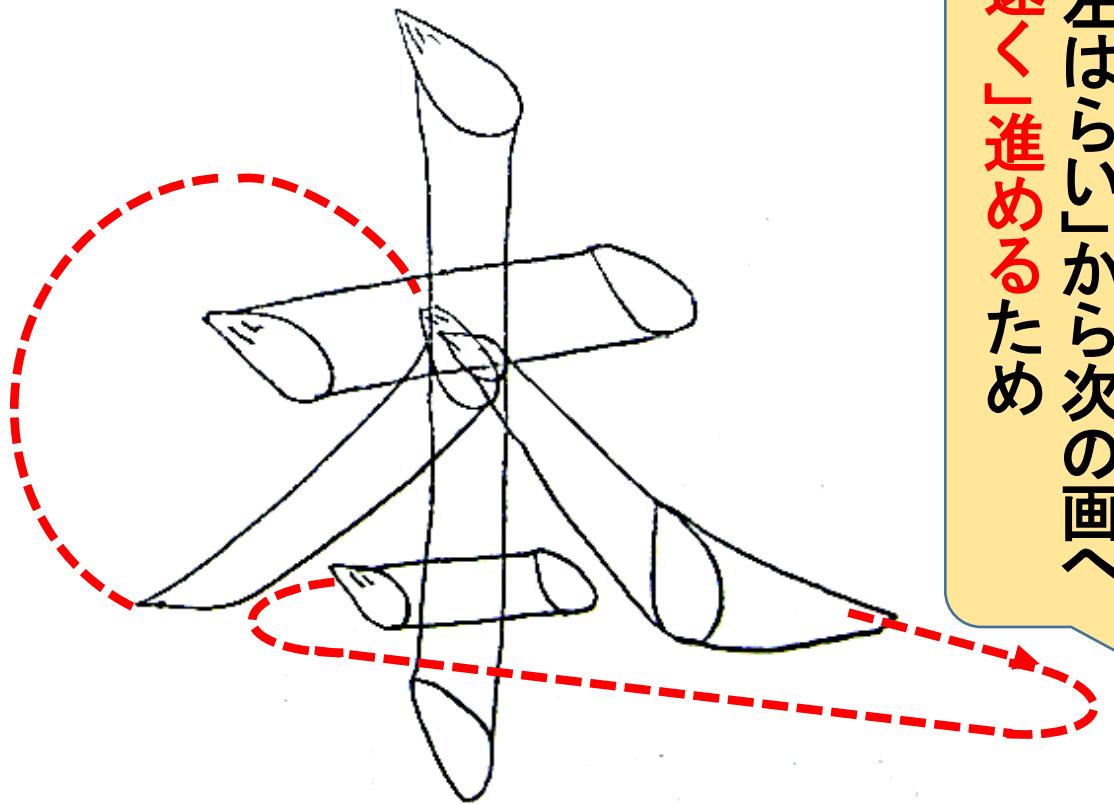
楷書は
右はらい「を
はらう

行書は
左はらい「の先を
止めた後
小さくはねる

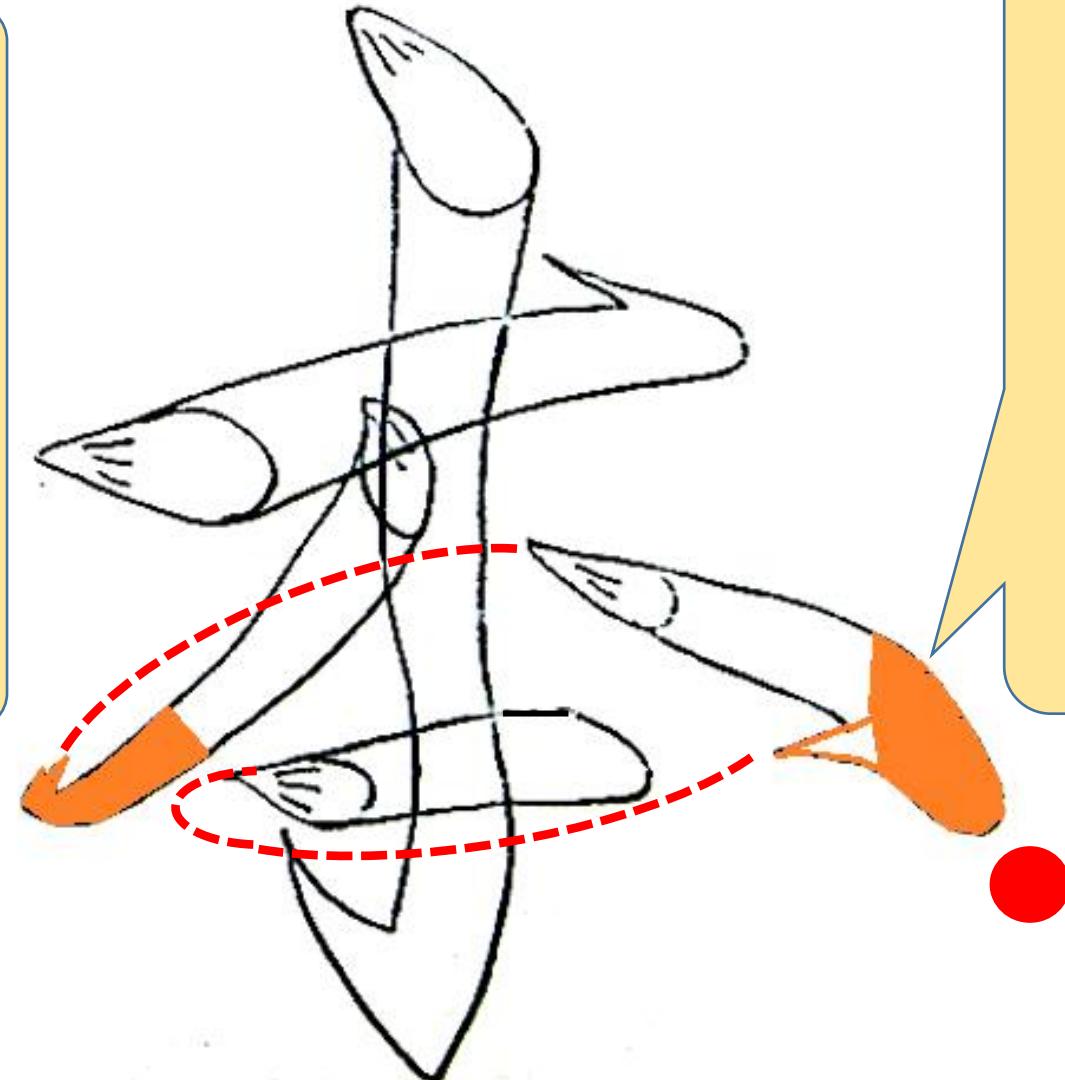


行書は
右はらい「を
はらう
くはねる
正めて「小さ

なぜ「終筆」を止めた後はねるのか

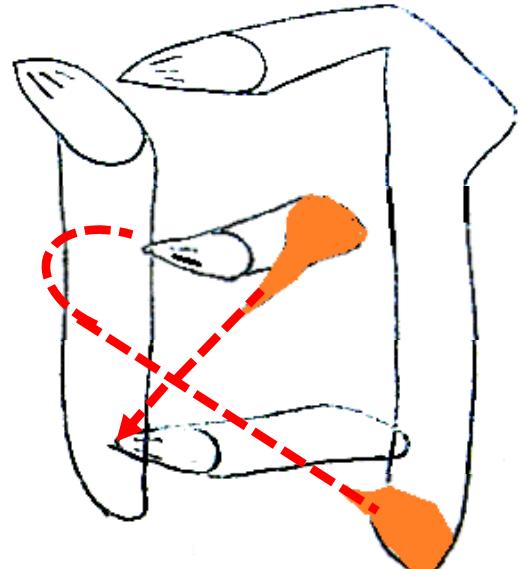


左はらいから次の画へ
速く進めるため

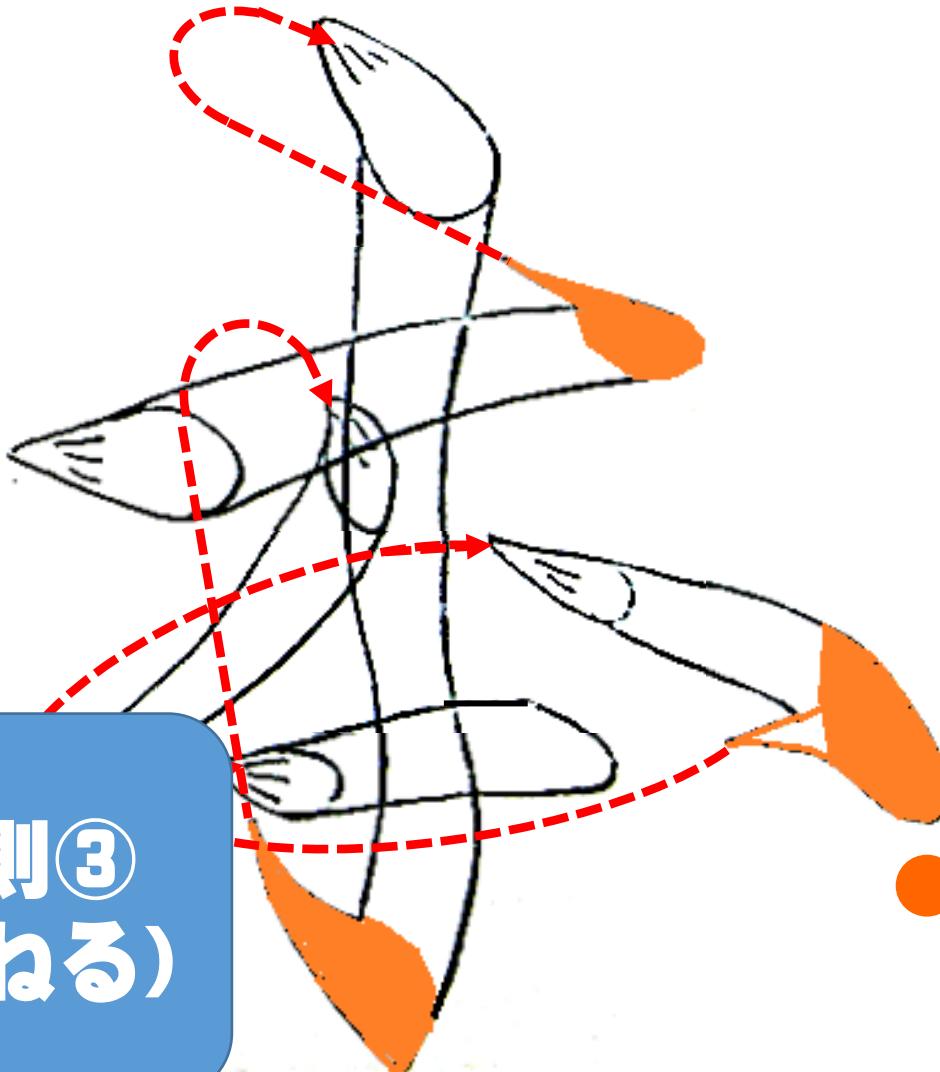


右はらいから
次の画へ速く進めるため

「終筆の変化」のまとめ



行書の基本原則③
終筆(止めてはねる)



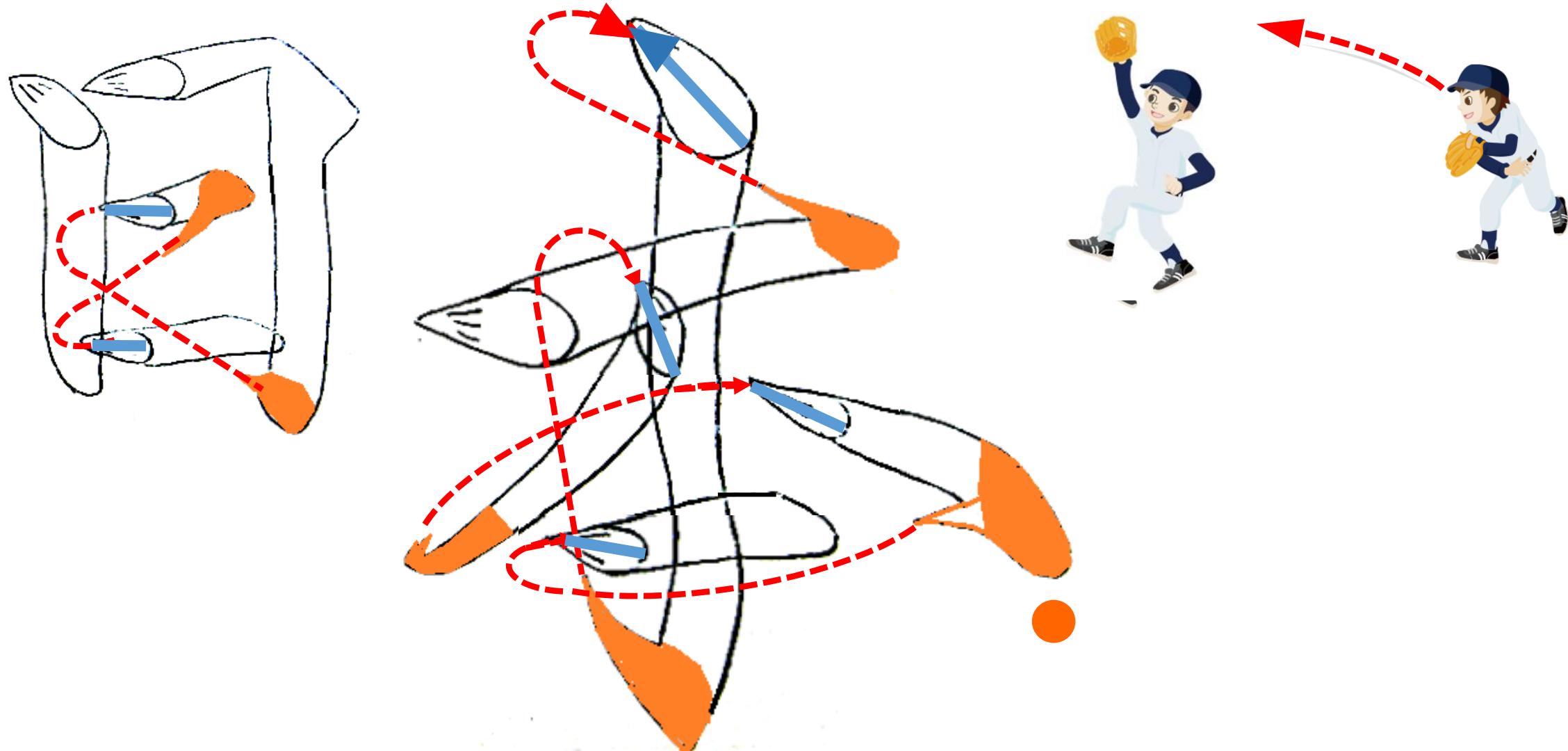
④ 右はらいの終筆を止めてはねる

③ 左はらいの終筆を止めてはねる

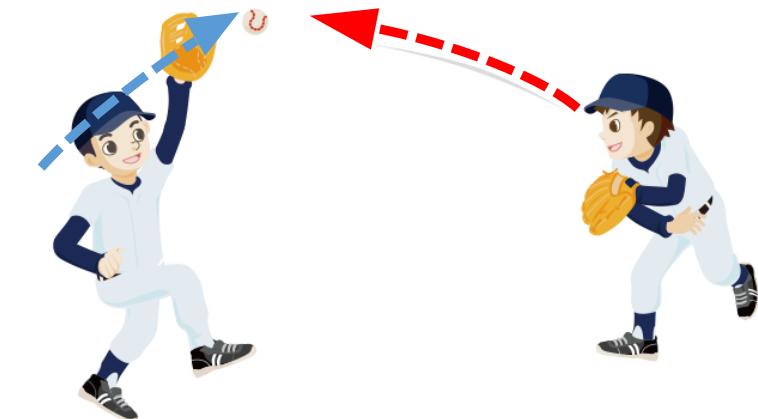
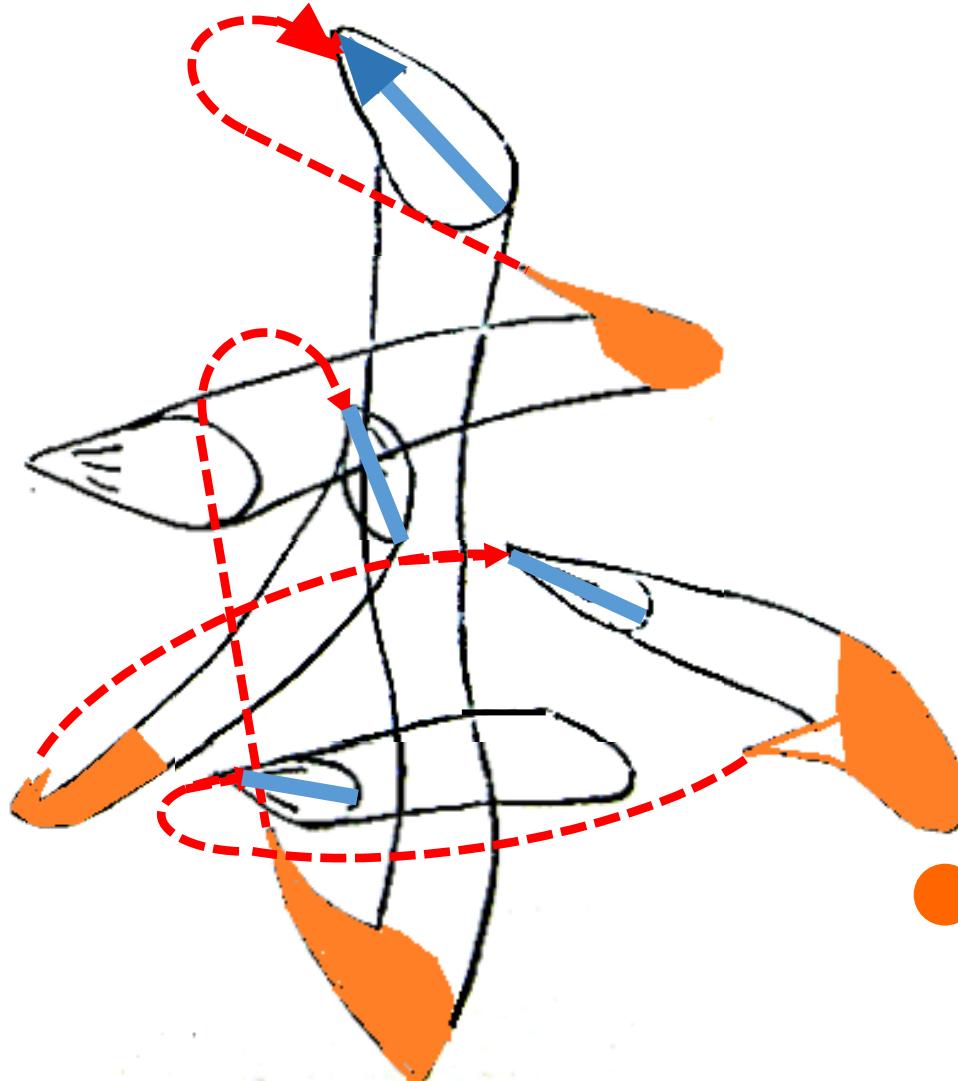
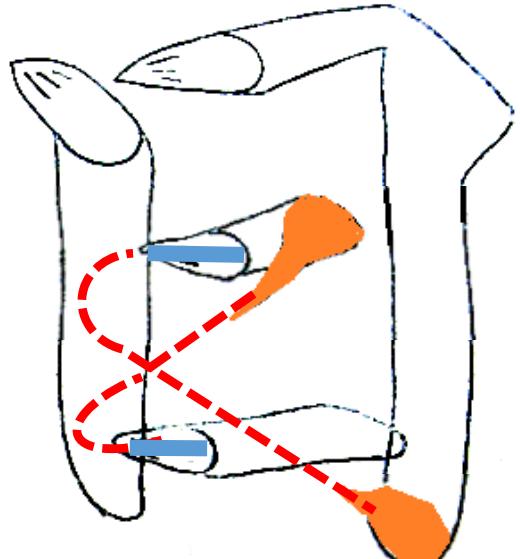
② たて画の終筆を止めてはねる

① 横画の終筆を止めてはねる

なぜ「始筆」や「終筆」を変化させるのか

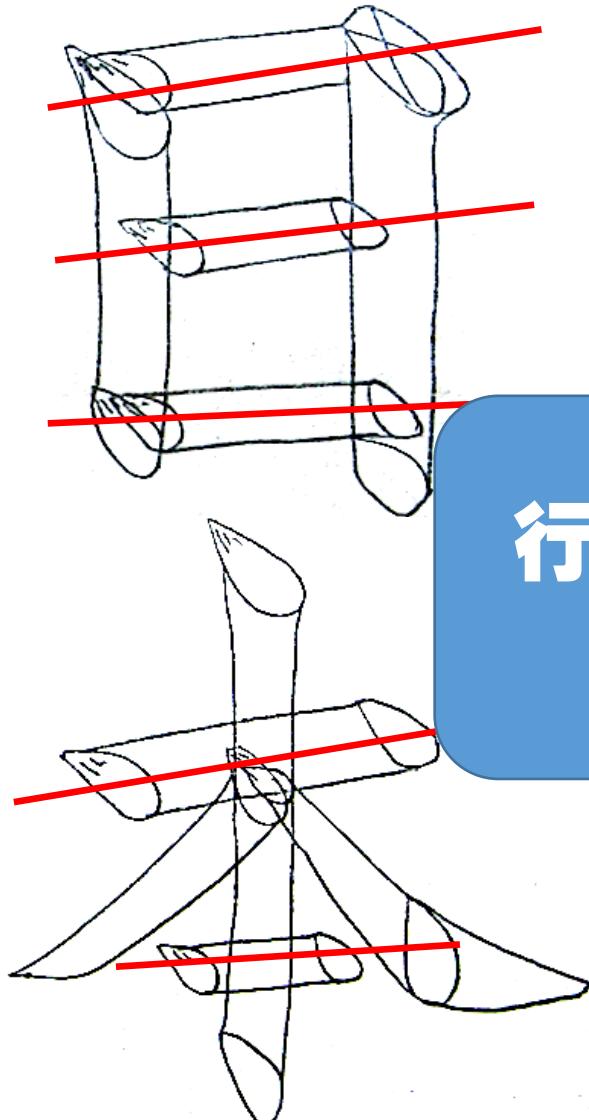


なぜ「始筆」や「終筆」を変化させるのか

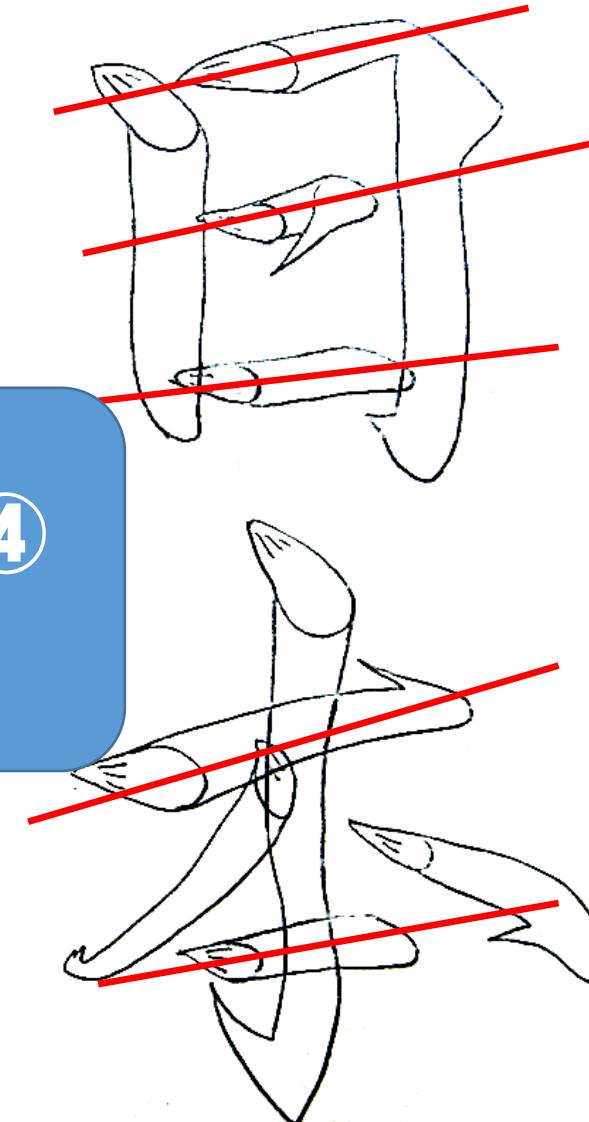


前の画から次の
画へ流れよう
につながつて
速く書くことが
できる

④「横画」の方向の違いを確認しよう



行書の基本原則④
右上がり



行書の横画は
全て「右上がり」が強い

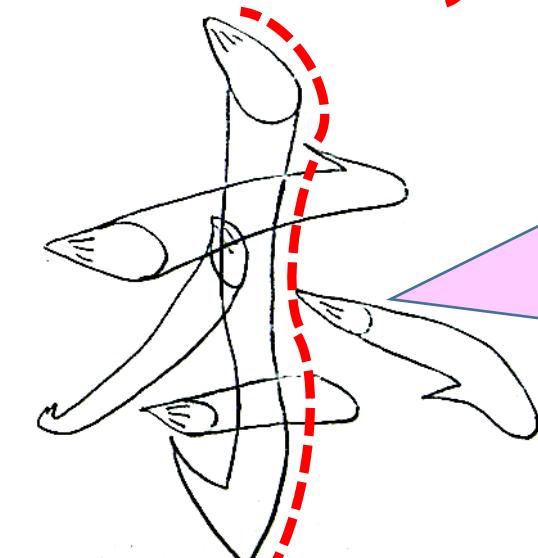
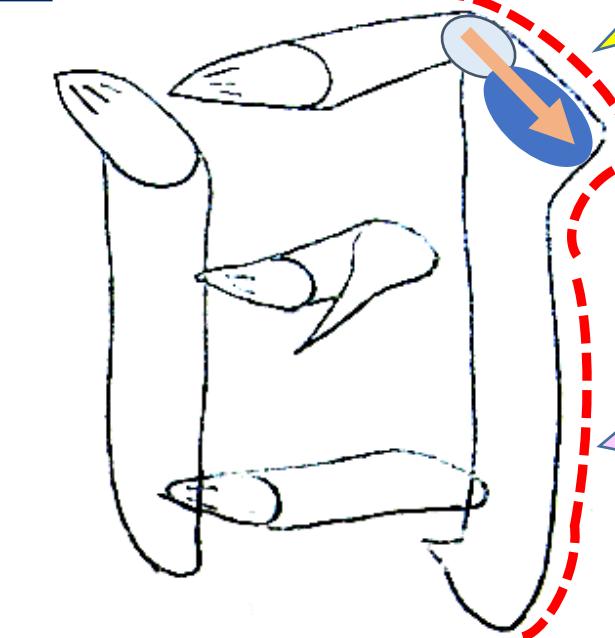
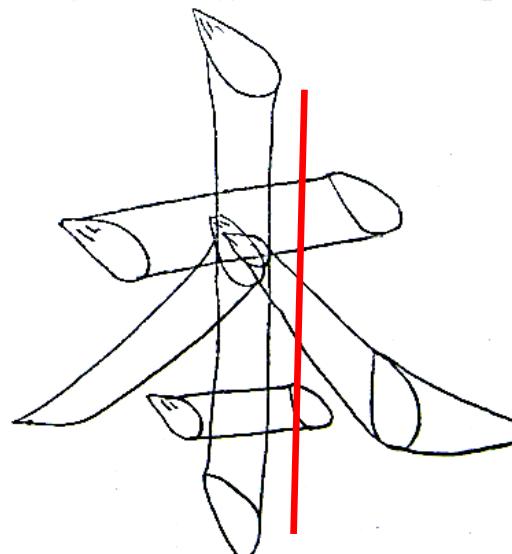
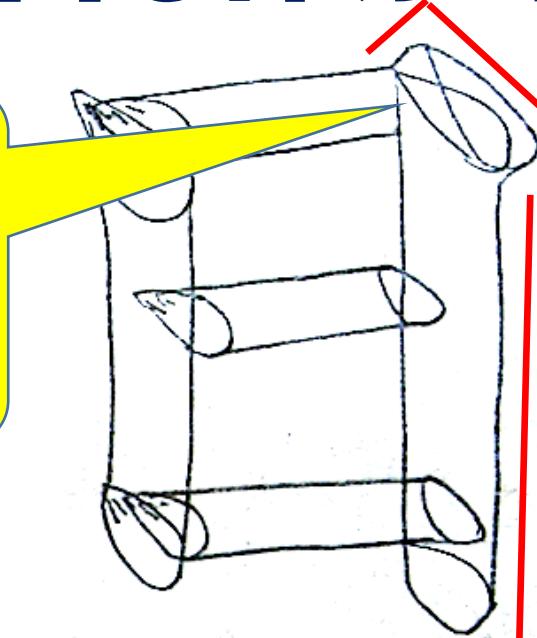
行書の基本原則

⑤「丸み」の出る部分（主に3つ）

も ③ 長い よこ画
丸み

行書の基本原則⑤
丸み

楷書は
上に
でつぱり

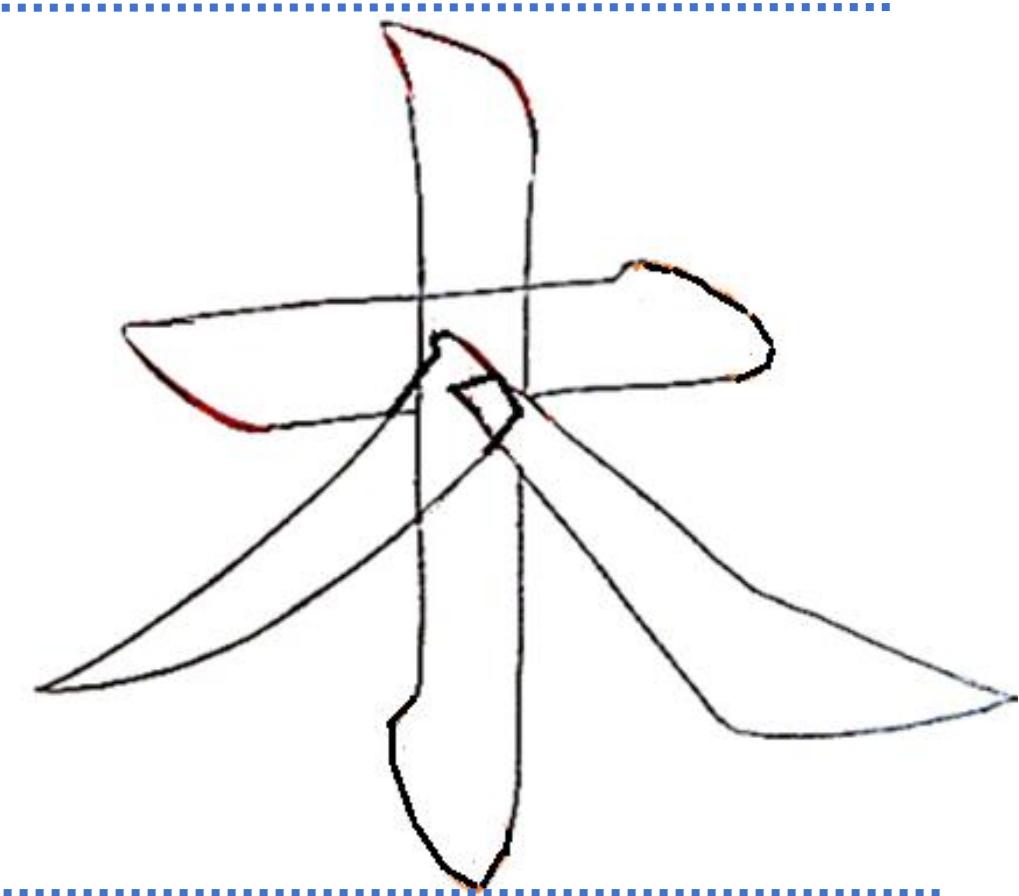
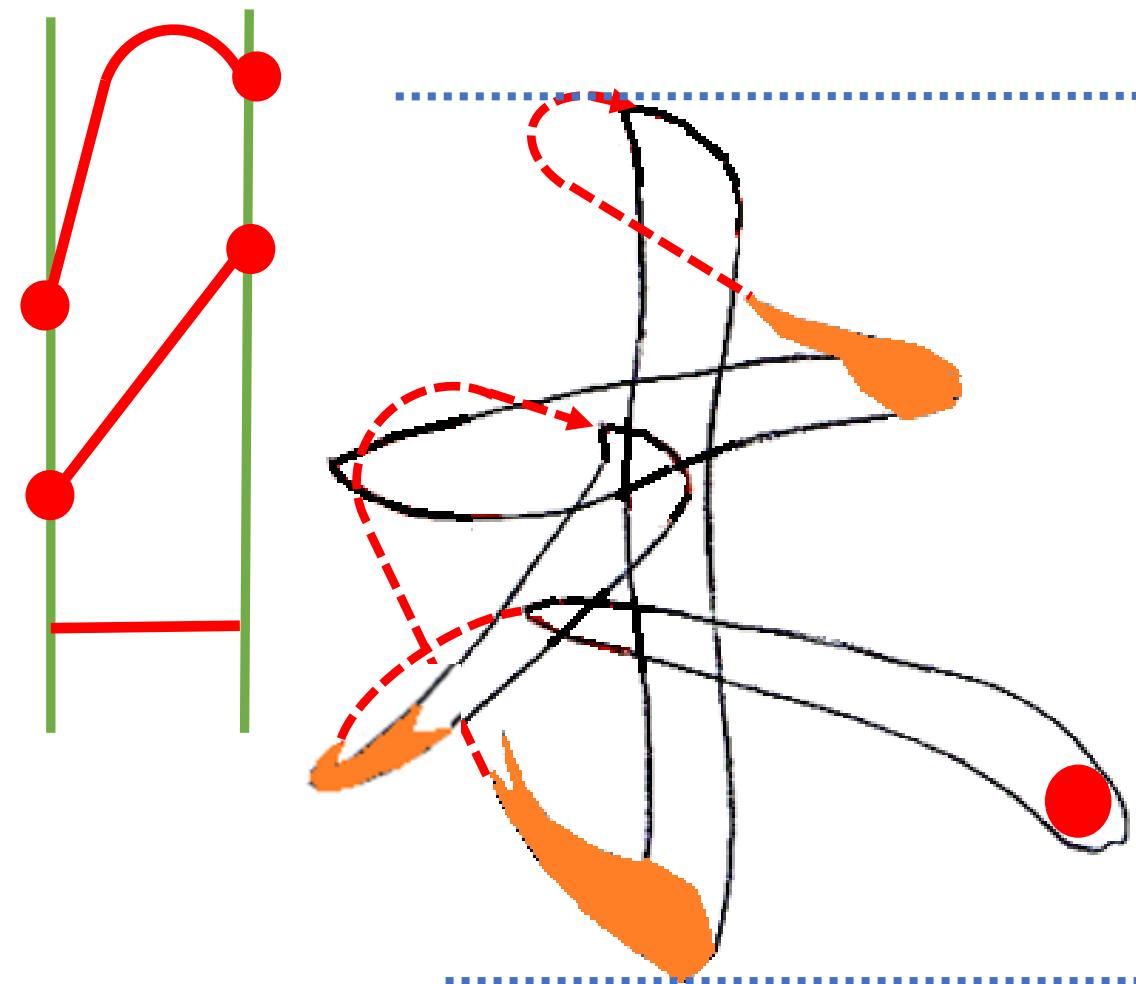


① 筆をすくらせ
て 丸み

② は 画
(S)字

は 長い
(S)字
たて画

なぜ「右に」上げて「丸み」をつけるのか？

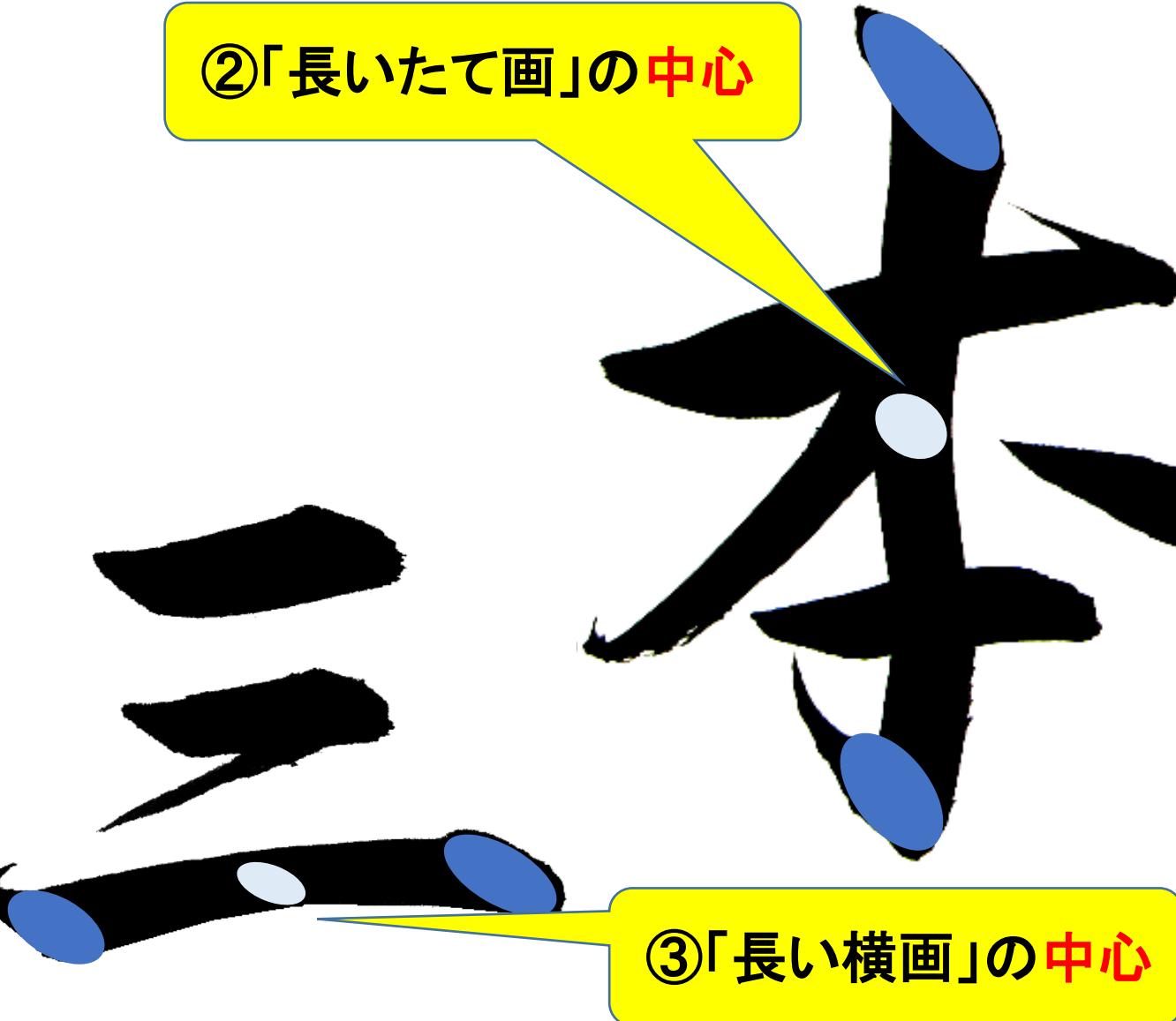


⑥「太さ」の変化を確認しましょう



細くなるところは主に3つ

②「長いたて画」の中心



①折れる前



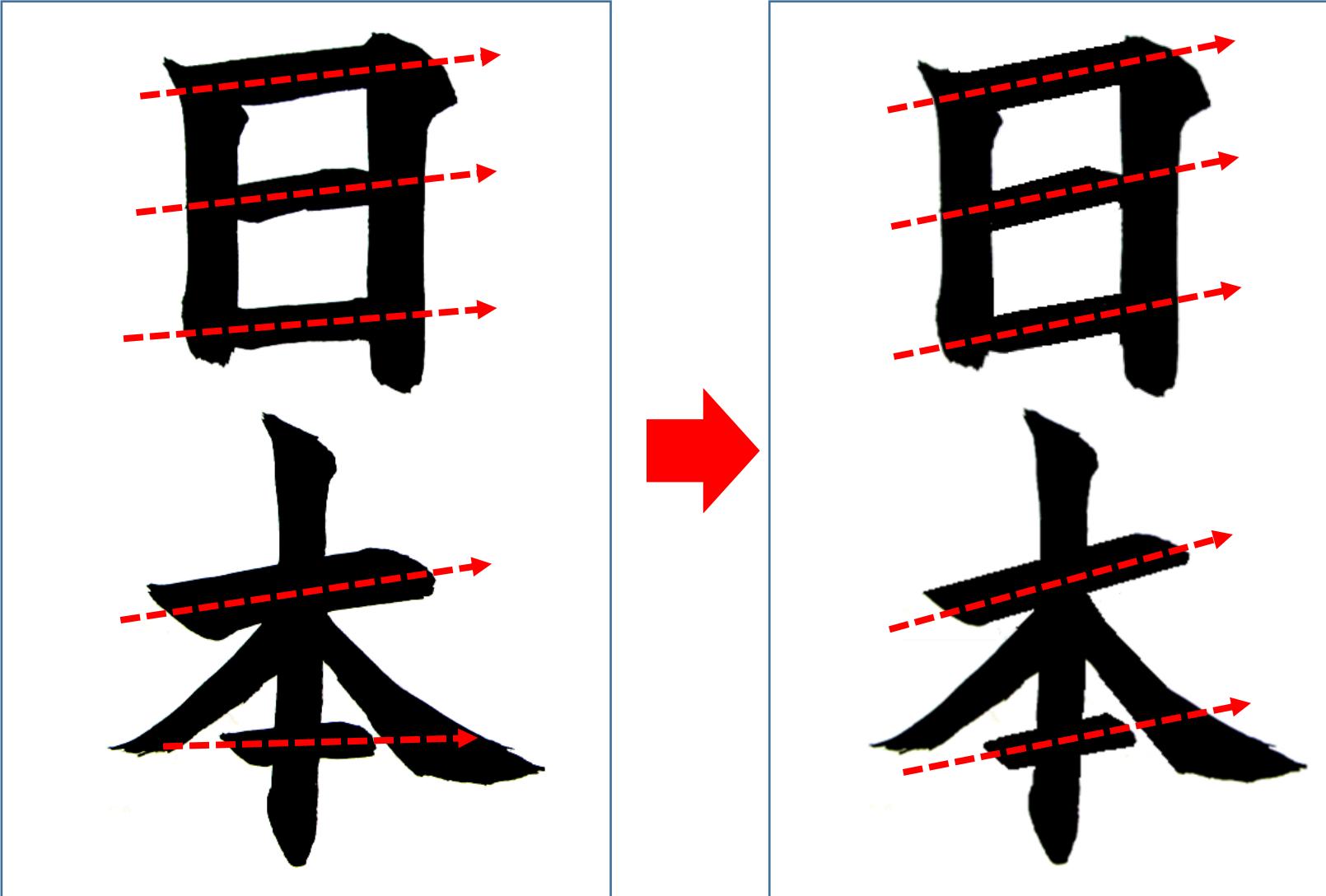
③「長い横画」の中心

行書の基本原則⑥
太さの変化

「行書」の基本原則①「右上がり」

行書の
基本原則

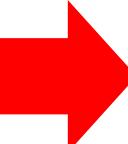
- ①右上がり
- ②接し方
- ③終筆
- ④始筆
- ⑤太さ
- ⑥丸み



「行書」の基本原則②「接し方」

行書の
基本原則

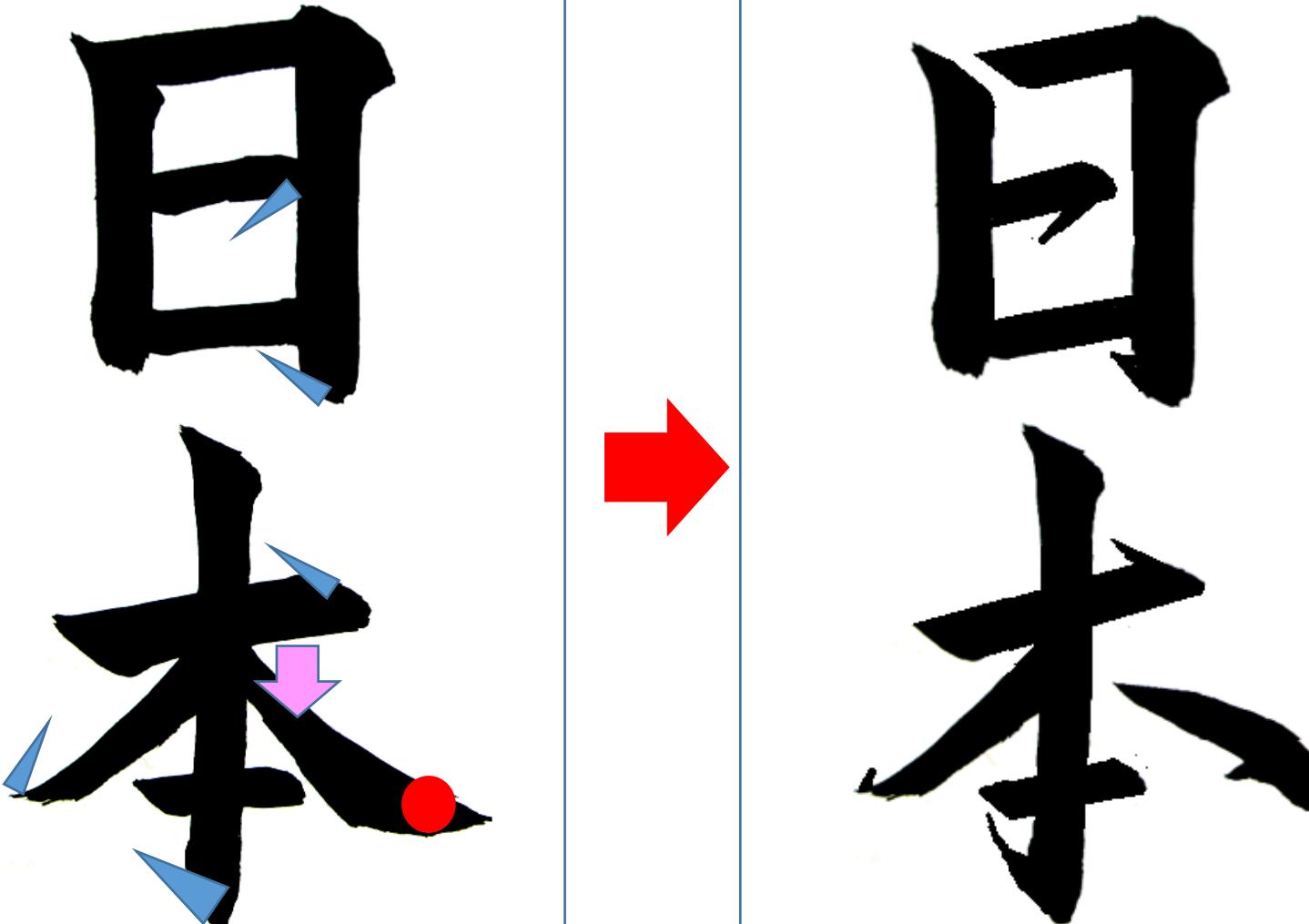
- ①右上がり
- ②接し方
- ③終筆
- ④始筆
- ⑤太さ
- ⑥丸み



「行書」の基本原則③「終筆」

行書の
基本原則

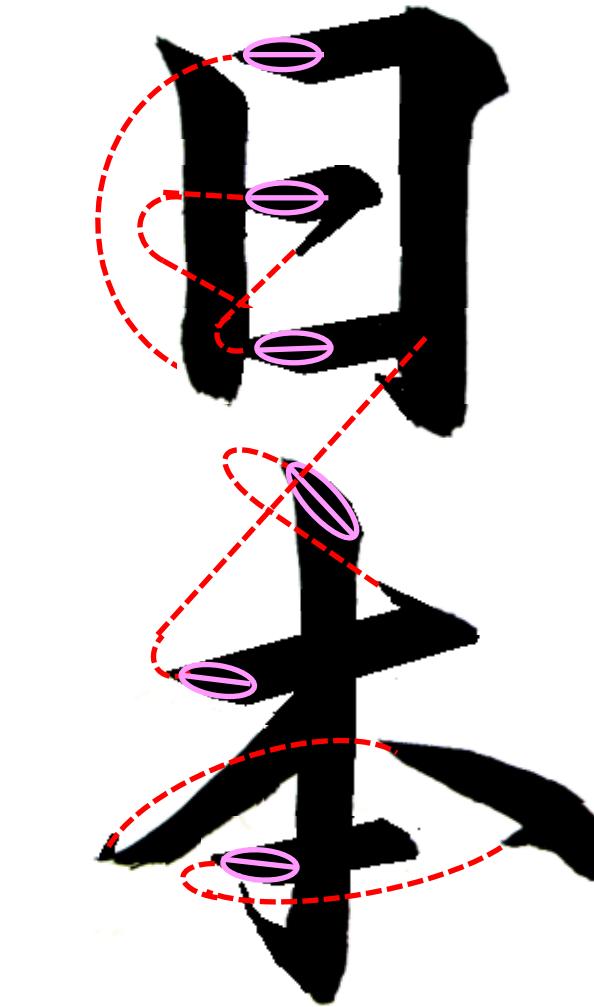
- ①右上がり
- ②接し方
- ③終筆
- ④始筆
- ⑤太さ
- ⑥丸み



「行書」の基本原則④「始筆」

行書の
基本原則

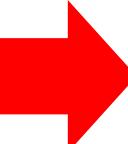
- ①右上がり
- ②接し方
- ③終筆
- ④始筆
- ⑤太さ
- ⑥丸み



「行書」の基本原則⑤「太さ」

行書の
基本原則

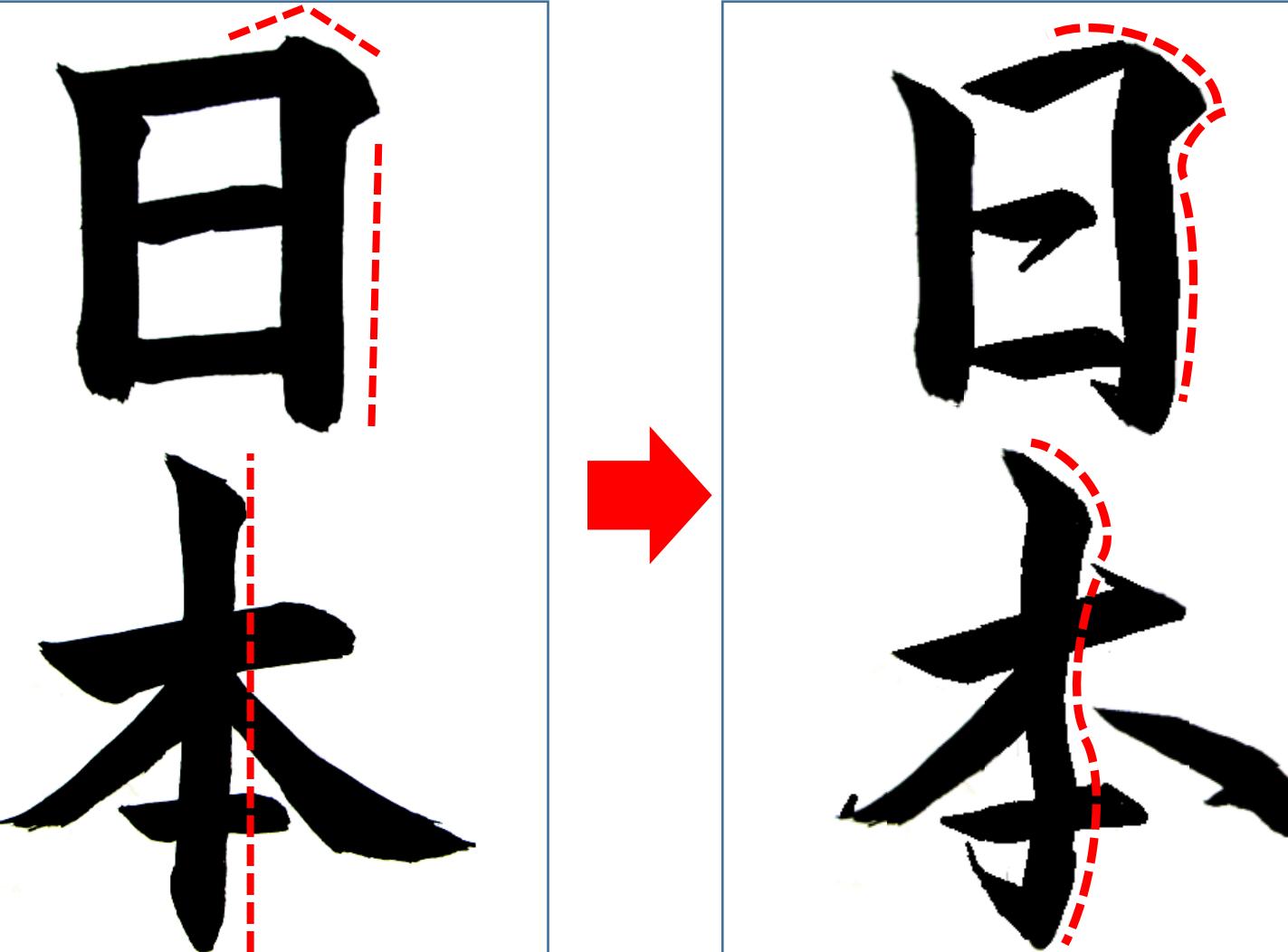
- ①右上がり
- ②接し方
- ③終筆
- ④始筆
- ⑤太さ
- ⑥丸み



「行書」の基本原則⑥「丸み」

行書の
基本原則

- ①右上がり
- ②接し方
- ③終筆
- ④始筆
- ⑤太さ
- ⑥丸み



「行書」の6つの基本原則で完成

行書の
基本原則

- ①右上がり
- ②接し方
- ③終筆
- ④始筆
- ⑤太さ
- ⑥丸み

行書の原則(技法)

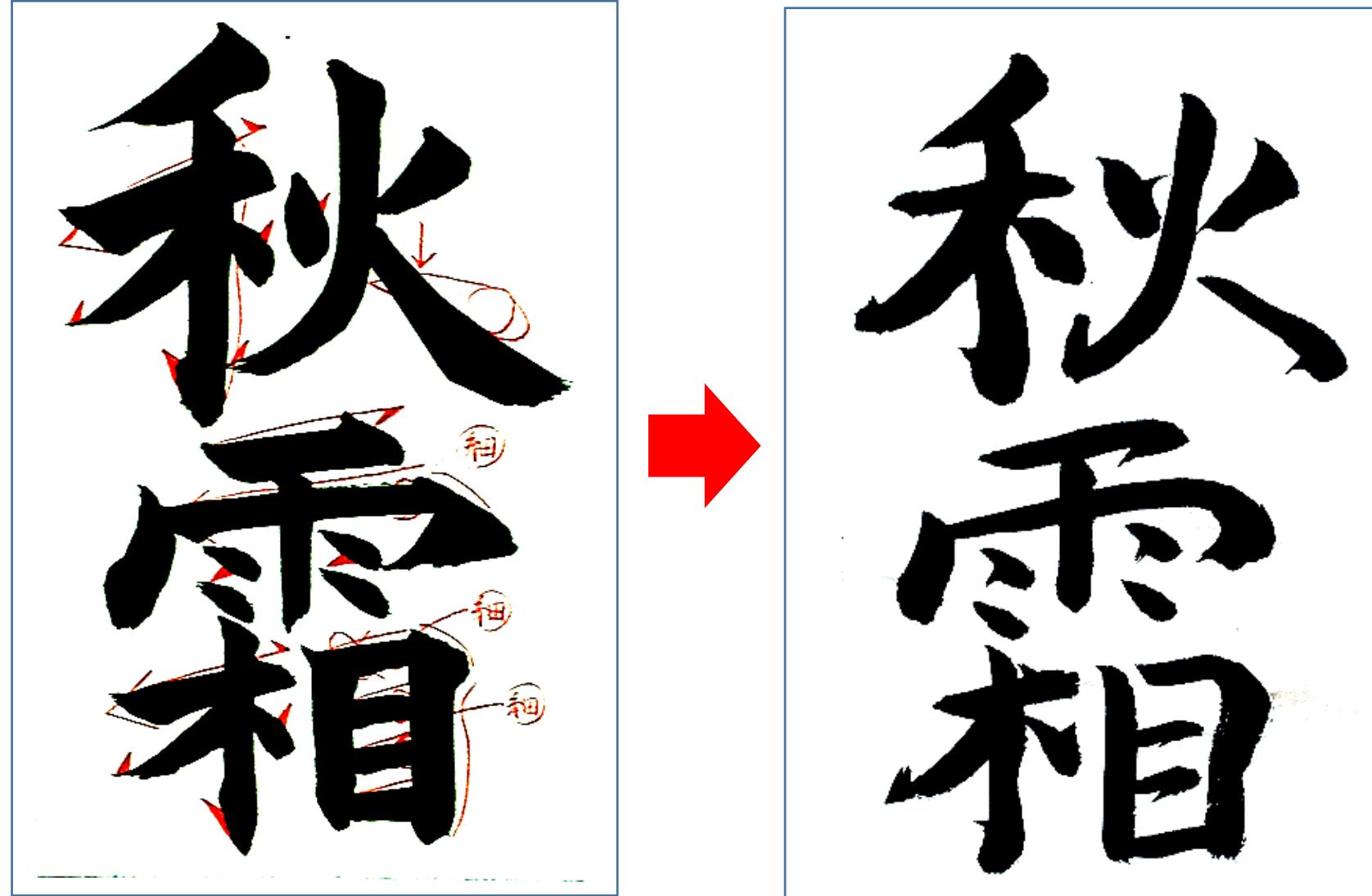
- ①連続
- ②省略
- ③筆順の変化

学習方法の工夫

6つの基本原則で「設計図」作成法（大学）

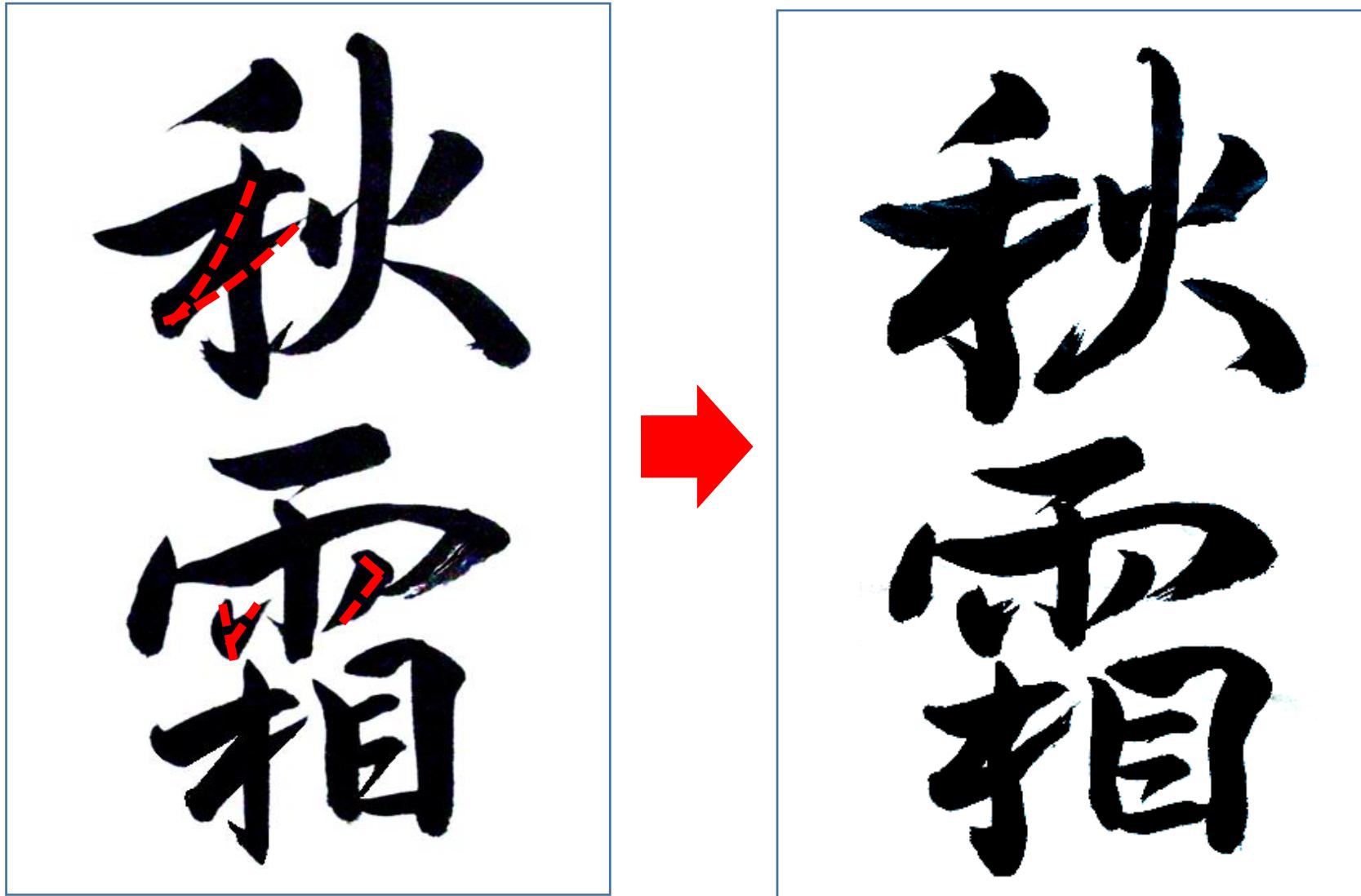
行書の
基本原則

- ①右上がり
- ②接し方
- ③終筆
- ④始筆
- ⑤太さ
- ⑥丸み



「省略」に集中して「まとめ書き」

行書の原則
(技法)
①連続
②省略
③筆順の変化



授業を受けた学生の感想（最後の授業）

- 書写の授業はとにかく書いて、上手な子が褒められるものだと思っていたが、その概念が壊され、書写ってこんなに楽しいんだ！と驚かされた。未来の子どもたちにも書写との出会いが素敵なものになるように指導していきたい。
- 字を書くことがすごく苦手で、人前に出したくない、恥ずかしいという気持ちが大きかったが、明らかに字が変化していくことが見えてとても嬉しかった。母親に初めて毛筆で書いた字を自慢した。「苦手、嫌い、教えられない、教えたくない」という気持ちから、「楽しい、好き、教えてあげたい、できる」というポジティブなものに変化したことがすごく良かった。



子ども達を書写好きに！

藤井浩治(コーディー)

